

学校評価に関する参考資料(小・中学校編)

- 信頼される「開かれた学校」づくりを目指して -



平成18年3月

栃木県総合教育センター

はじめに

各学校では、保護者や地域の人々と連携を深め、家庭や地域とともに児童生徒を育てていくという視点に立ち、開かれた学校づくりを推進しているところです。

平成 14 年 3 月には、「小学校設置基準」及び「中学校設置基準」の制定、「高等学校設置基準の一部改正」などが行われ、学校はこれまで以上に、教育活動や学校運営の改善につながるような自己評価のシステムを確立するとともに、取組の過程や成果を保護者や地域の人々に対して分かりやすく説明することが必要となっています。

栃木県教育委員会では、平成 17 年 3 月に学校評価を行う指針となる、「学校評価の手引き」を作成し、児童生徒や地域の実情に応じて創意工夫した学校評価システムを確立し、学校の現状や教育目標などに合わせた適切な学校評価が計画・実施されるよう推進しています。

現在、多くの学校では、児童生徒や保護者、学校評議員などとの関わりを重視して、学校評価の改善に積極的に取り組んでいます。

総合教育センターでは、平成 15 年度より「学校評価システムの在り方」を研究テーマとし、学校の自主的・自律的な教育活動の推進に向けた学校評価の在り方について調査研究を進めてきました。また、本年度は、「学校評価 Q & A - 明日の学校づくりのために - 」をリーフレットにまとめ、校内研修資料として全教職員に配付しました。

以上のことを踏まえ、本冊子は、小・中学校における学校評価の取組状況について、聞き取り調査を行いまとめたものです。各学校においては、教育活動や学校運営の改善につながる学校評価システムを確立し、家庭や地域に一層信頼される、開かれた学校づくりを進めるために、本冊子をご活用ください。

終わりに、調査にご協力をいただいた小・中学校及び関係機関に深く感謝申し上げます。

平成 18 年 3 月

栃木県総合教育センター所長
佐藤 信勝

目次

調査の概要	1
1. 調査の目的	
2. 調査方法	
3. 調査時期	
4. 調査対象者及び調査協力校	
学校が抱えている学校評価の問題	2
1. 自己評価の進め方	
2. 外部評価の進め方と公表の仕方	
調査からみる学校評価の現状と課題	6
1. 県内の取組状況	
2. 教職員の意識調査	
自分が評価したい、されたいと思える学校評価を目指して	10
事例1 マネジメントサイクルを生かした学校再生	10
事例2 外部評価の実践とその活用	13
事例3 評価票を生かした検討会の工夫	19
事例4 日常的な教育活動に評価を生かす取組	24
事例5 評価結果をもとに話し合いを通して共通理解を深めた取組	28
事例6 自分が評価したい、されたいと思える学校評価の一工夫	33
工夫1 週案を活用した評価	33
工夫2 通知表を利用した情報発信と外部評価	34
工夫3 ホームページを活用した積極的な情報発信と外部評価	35
今回の調査から	36
資料	38
学校評価に関する教職員の意識に関する調査結果	

調査の概要

1. 調査の目的

本県教職員の学校評価への取組に対する意識調査を通して、従来から取り組んできた学校評価の成果や課題について明らかにする。また、小・中学校で行われている充実した学校評価の取組について聴き取り調査を行い、それぞれの学校に合った取組を推進するための参考資料を作成し、学校評価システムを生かした学校経営の改善に資する。

2. 調査方法

- (1) 質問紙による教職員の意識調査
- (2) 小・中学校への聴き取り調査

3. 調査時期

- (1) 教職員の意識調査
平成17年5月～6月
- (2) 小・中学校への聴き取り調査
平成17年6月～7月

4. 調査対象者及び調査協力校

- (1) 教職員の意識調査
 - 5年目研修受講者 49名(小学校24名、中学校25名)
 - 10年目研修受講者 153名(小学校74名、中学校79名)
 - 20年目研修受講者 283名(小学校160名、中学校123名)
- (2) 小・中学校への聴き取り調査
 - ・ 宇都宮市立泉が丘中学校
 - ・ 日光市立安良沢小学校
 - ・ 二宮町立物部小学校
 - ・ 下野市立国分寺中学校(旧国分寺町立国分寺中学校)
 - ・ 矢板市立矢板小学校
 - ・ 那須塩原市立黒磯中学校
 - ・ 那須烏山市立烏山小学校(旧烏山町立烏山小学校)
 - ・ 佐野市立葛生中学校

学校が抱えている学校評価の問題

ここでは、学校評価に関してよく見かけるワンシーンを示しています。このようなワンシーンに心当たりはありませんか？

章に掲載している一つ一つの事例は、このワンシーンに出てくる問題を解決する示唆を与えてくれるものと思われます。より充実した学校評価を推進する際の手がかりとしてご活用ください。

1. 自己評価の進め方

シーン1

夏休みが近づいたある日、ある小学校の職員会議の出来事です。教務主任から夏休み前の職員会議時に連絡がありました。



夏休みを2週間後に控え、成績処理等で忙しいこととは思いますが、1学期の教育活動について学校評価をお願いします。評価をもとに2学期の教育活動の改善に生かしたいと思います。提出してもらった評価表を集計して、運営委員会で見直し、改善の具体策を検討していきたいので、7月末までに担当まで提出してください。

しかし、普段から学校評価の実施の仕方や活用方法に疑問を抱いていた教職員からは、職員会議終了後次のような会話が聞かれました。

今年もこの学期末の忙しい時期に学校評価を実施するのね。毎年同じ項目で同じように評価して(評価表に書いて)いるけど、いつも集計して終わりよね。A、B、C、Dのランク付けするだけで意味があるのかしら？



C、D評価をつけた項目には、毎回私なりに改善策を書いているけれど、それらを担当が集計表にまとめて終わり。いつも私たちにはその結果を配られるだけ。運営委員会で、検討しているみたいだけど、見直し策について全教職員が理解して取り組もうとしているのかしら。



自分が関わっていない校務分掌の内容を評価するのは難しいな…。どのような基準でA、B、C、Dを付けるのかも、よく分からないし・・・。

CやDを付けるのは担当の先生に悪いので、AかBを付けることになっちゃうな。

シーン2

1月末のある日、ある中学校の職員会議の出来事です。教務主任から学校評価に関する次のような提案がありました。



4月に校長から学校経営方針が出され、学校が取り組むべき重点課題(目標)と具体的な努力点が示されました。先生方は各自重点目標を達成すべき、この一年間様々な教育活動に取り組んできたと思います。2月にそれらを総括した評価を行い、次年度に生かす具体策づくりを進めていきますので、次の実施要項に沿って学校評価をお願いします。

教務主任は、4月に示された学校の重点課題と具体的な努力点の達成状況を130項目から評価しようと、実施要項と評価表を作成して教職員に配付しました。しかし、配付後、教職員からは次のような声が聞かれました。

重点課題と具体的な努力点	学校評価実施要項
<p>1 心の教育の充実</p> <p>ア 道徳の時間を充実させるとともに、道徳教育全体計画の具現化を図る。</p> <p>イ スクールカウンセラーとの連携を深め、学業や生活に関する教育相談を充実させる。</p> <p>ウ 郷土の文化や歴史・伝統の理解に努めると共に、地域活動や体験学習を充実させる。</p> <p>2 確かな学力の育成</p> <p>ア 個に応じた充実感のある授業を展開し、基礎的・基本的事項を確実に定着させる。</p> <p>イ 体験的な学習や問題解決的な学習を推進し、学習意欲を喚起するよう努める。</p> <p>ウ 学校や生徒の実態を考慮し必修教科との関連を重視した選択教科を推進する。</p> <p>3 体力の向上と健康・安全教育の充実</p>	<p>1 評価項目</p> <p>(1)教育目標(内容・具現化・編成)</p> <p>(2)教育課程(編成・運営)</p> <p>(3)学校経営(組織・運営・研修・施設・事務・予算)</p> <p>(4)学年経営(計画・運営)</p> <p>(5)学習指導(各教科・道徳・総合的な学習の時間)</p> <p>(6)特別活動(学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事)</p> <p>(7)各種教育(人権教育・情報教育・図書館教育・その他)</p> <p>(8)現職教育(校内研修・学校課題・3あい運動)</p> <p>(9)児童指導(児童指導・教育相談・交通安全指導)</p> <p>(10)環境教育(内容・清掃・環境美化)</p> <p>(11)健康安全(健康安全指導・給食指導・業間・休み時間)</p> <p>(12)PTA関係(PTA活動・地域連携)等</p> <p>2 実施時期 2月上旬</p> <p>3 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記名による4段階評価と記述式 <p>4 評価の活用と公表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、個人、学年、係、全体の各レベルで検討する。 ・結果をまとめ、職員に公表し、職員会議で話し合う。
<p>6 進路指導の充実</p> <p>ア 生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できるような進路指導を推進する。</p> <p>イ 多様化する生徒のニーズに対応できるような進路資料の整備充実に努める。</p> <p>ウ 進路指導の全体計画及び各学年指導計画の完全実施に努める。</p> <p>7 情報教育の充実</p> <p>ア 各教科・領域等においてコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する。</p> <p>イ 説明責任を果たし、情報を発信する学校ホームページを充実させる。</p> <p>8 教職員研修の充実と資質の向上</p> <p>ア 職責感や使命感を高揚させ、指導力や社会性を高める研修を進める。</p> <p>イ 教科指導や生徒理解の資質を高めるために授業等を通じた研修を進める。</p> <p>ウ 教科・領域等の学習評価や学校評価の在り方に関する研修を進める。</p> <p>エ 性教育・人権教育及び特別支援教育に関する研修を進める。</p>	

評価項目が130項目と多くて困ったな…。一度に全項目をきちんと評価するなんて難しいな。



この1年、自分なりに一所懸命取り組んできたけれど、全ての努力点について同程度に力を注いでいたわけではないし・・・。そう言えば、先生方は各自各様に重点課題に取り組んできたよな・・・。果たして重点課題についてどれだけ成果が上がったのだろうか？



2. 外部評価の進め方と公表の仕方

シーン3

12月になったある日の、ある中学校における朝の打ち合わせのことです。教務主任から次のような連絡がありました。

今までは学校の在り方を教職員だけが振り返り、評価し、次年度の学校行事や教育活動に生かしてきました。しかし、今年度は学校が取り組んできた教育活動に関して、保護者による学校評価を行います。評価の結果をもとに、次年度の教育活動の改善策を検討し、改善案を保護者や地域の方々に提示していきたいと思います。



早速、学年部会で外部評価の進め方について打ち合わせが持たれましたが、その席では、次のような会話が聞かれました。

多様な価値観をもつ保護者が多くなり、保護者によって評価にばらつきが予想されます。

生徒による授業評価も、教育効果を考えると生徒にとってマイナス面が多いと思うな。

学校の内情をあまりよく知らない地域の人や学校評議員にきちんとした評価は難しいと思いますよ。偏った情報で学校の在り方を左右されたくないな。

私は、前に学級経営についてアンケートをとったら、生徒、保護者の切なる願いが感じ取れたわ。「学校」の考えと「保護者」の受け取り方に違いがあることも分かったし、学校はもっと積極的に情報を発信しなければならないと思うわ。

評価イコール批判と感じる我々も反省すべきだと思いますよ。保護者や地域の方々の意見を真摯に受け止め、よりよい実践をしていけば、結局それは生徒に還元されるのですから。保護者も、より一層学校に関心を持ち、協力もしてくれるのではないのでしょうか。

私たちが実施する学校評価の結果は、保護者や地域の人たちに公表するのかしら？

外部評価を実施するのはいいけど、その評価結果を公表するには、どのようにするのが効果的なのかな？



シーン4

ある小学校では、よりよい開かれた学校をつくるため、従来行われてきた教職員による年度末の反省や改善点の提言に加え、学校のことについて保護者からアンケートを行い、改善策を検討することになりました。

「学校に関して率直なご意見をお聞きするため、下記のアンケートを実施いたします。結果をまとめて、今後の学校教育に生かしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。」と、児童を通してアンケート用紙が配られました。

アンケートの内容は、次のようなものでした。

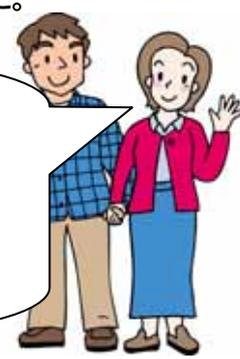
学校の取組に関する次の各項目について、A～Eの中から当てはまるものを選び、回答欄にご記入ください。

A よくあてはまる B だいたいあてはまる C 普通 D あまりあてはまらない E まったくあてはまらない

- 学校は、保護者や地域の願いに応えた取組をしていますか。
- 学校は一人一人を大切に教育を行っていると思いますか。
- 学校は教育目標や学年・学級目標等を保護者に分かりやすく伝えていると思いますか。
- 学校は特色のある学校であると思いますか。
- 自ら学び、進んで創造する子が育ってきていると思いますか。
- 情操豊かで、明るく思いやりのある子が育ってきていると思いますか。
- 心身共に健康で、たくましい子が育ってきていると思いますか。

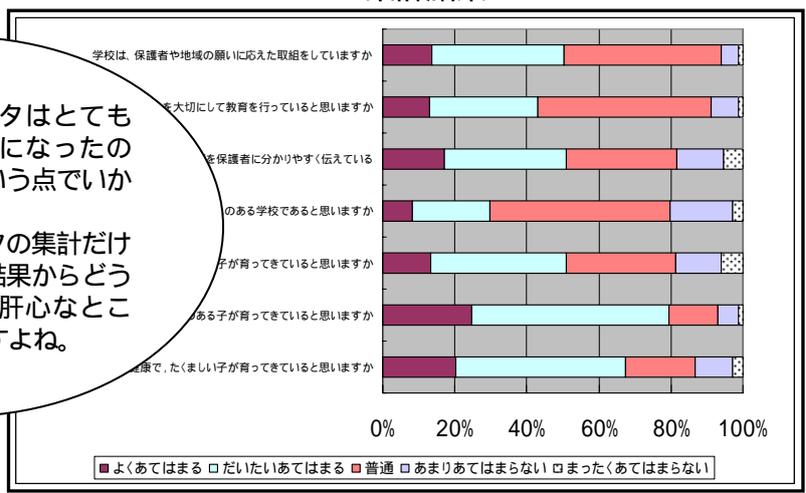
しかし、アンケートをもらった保護者からは、次のような声が聞かれました。

すばらしいアンケートで、「ふーん そうなのか」と思ってしまうことばかりだったので、ためになりました。ただ、そんな「学校の取組アンケート」ですが、保護者の中には、よくわからないから真ん中辺りでいいや、なんていう人が結構多いように思います。「難しくって」、「わかんないよねー」なんて言っている保護者の方はいます。私も娘からアンケートをもらっても、しょっちゅう学校に行っているわけではないので、学校の取組については、あまり良く知りません。だから、返答に困ってしまったらとりあえず真ん中辺りに を付けてしまいます。



集計結果のデータはとても分かりやすく参考になったのですが、信頼性という点でいかがでしょうか？
また、このデータの集計だけでは、学校がこの結果からどう改善していくのか肝心なところが分からないですね。

集計結果



保護者へは、どのようにして学校の取組や評価の結果を伝えていければいいのだろうか？

調査からみる学校評価の現状と課題

1. 県内の取組状況

自己評価(教職員による学校評価)は、すべての小・中学校で実施されています。外部評価(教職員以外による学校評価)を実施している学校は、小学校が9割を超え、中学校も8割を超えるなど、数字の上では平成16年度と比べ順調に推移しています。

学校評価の公表に関しても、自己評価、外部評価とも公表する学校が増えています。ただ、外部評価の公表が小・中学校とも約9割であるのに対し、自己評価の公表は約5割にとどまっています。

公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況

平成17年5月1日現在

調査項目	小学校				中学校			
	実施している		検討している		実施している		検討している	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
自己評価 1	100%	100%	0%	0%	100%	100%	0%	0%
自己評価結果の公表	45.9%	38.7%	32.4%	41.3%	50.9%	47.3%	26.0%	33.9%
外部評価	93.4%	87.8%	5.9%	11.0%	82.8%	74.8%	15.4%	21.6%
外部評価結果の公表 2	85.8%	77.5%	6.6%	10.3%	90.0%	78.9%	9.3%	19.5%

1 実施しているとの回答は本年度実施予定も含む

2 で実施している回答した学校のみ

2. 教職員の意識調査

自己評価、外部評価が、数字の上では順調に推移しており、全ての教育活動にわたって評価が行われている一方で、多くの教職員は、現行の学校評価システムに課題を感じていることが明らかになりました。(P7 図1、2参照)

また、学校評価の有用感に関する教職員の意識は高く、積極的に学校評価に取り組んでいるものの、明らかにされた課題からは、何を評価し、評価した結果をどう生かしていくか、といった基本的なところで悩みを抱えている学校の状況がうかがえました。(P8 図3、4、P9 図5参照)

ここに注目！

- 教職員の7割以上が「学校評価」に課題を感じている。
- 「判断基準が明確でない」、「評価したことが改善に生かされない」を課題と感じている教職員が多い。

【質問1】学校評価を実施するに当たって課題と感じていることはありますか

5年目研修受講者 49名
(小学校 24名、中学校 25名)
10年目研修受講者 153名
(小学校 74名、中学校 79名)
20年目研修受講者 283名
(小学校 160名、中学校 123名)
回答総数 N = 485

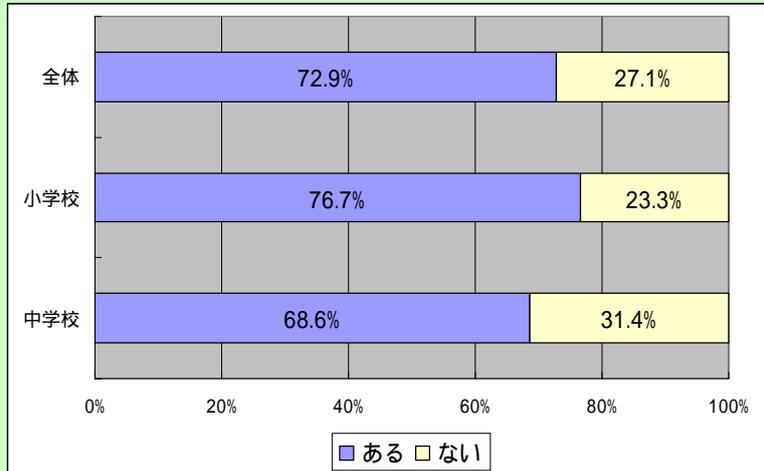


図1 学校評価実施における課題意識

【質問2】どのような点を課題と感じていますか

課題と感じている教職員数 N = 354

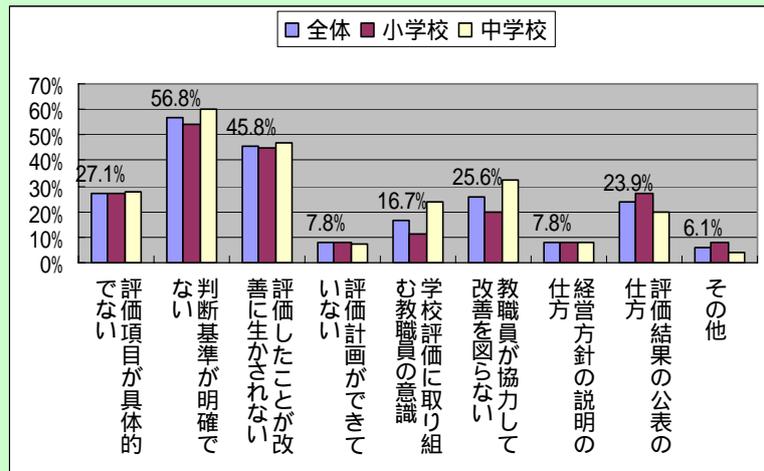


図2 学校評価の実施における課題意識の理由

学校評価について課題を感じている教職員の割合は、小・中合わせて 72.9% (小学校 76.7%、中学校 68.6%) です。課題と感じている全教職員 (354 人) を対象に「どのような点を課題と感じているのか」を尋ねたところ、「判断基準が明確でない」が最も多く、56.8% を占めました。「評価したことが改善に生かされない」ことをあげている教職員は、半数近くに上っています。以下、「評価項目が具体的でない」、「教職員が協力して改善を図らない」、「評価結果の公表の仕方」と続いています。学校評価はしたけれど、それらの結果を「どう改善に生かせばよいのか」、「どのような手順で改善策を策定すればよいのか」、「分かりやすく、しかも保護者や地域の人たちに理解が得られるような公表の仕方はどうすればよいのか」が、大きな課題になっていることが明らかになりました。

ここに注目！

- 教職員の75%以上は、「学校評価」に積極的に取り組んでいる。
- 積極的に取り組んでいると回答した教職員は、「課題が明確になり、解決に取り組める」(75.2%)、「学校行事等の改善に役立つ」(63.0%)、「学年経営、学級経営等の改善に役立つ」(44.4%)を理由にあげている。

【質問3】あなたは学校評価に積極的(意欲的)に取り組んでいますか

5年目研修受講者 49名
(小学校 24名、中学校 25名)
10年目研修受講者 153名
(小学校 74名、中学校 79名)
20年目研修受講者 283名
(小学校 160名、中学校 123名)
回答総数 N = 485

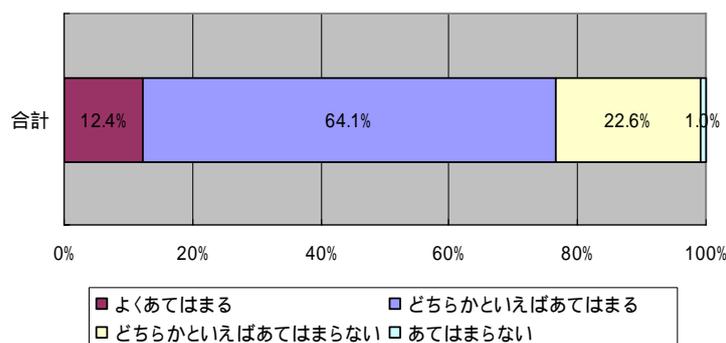
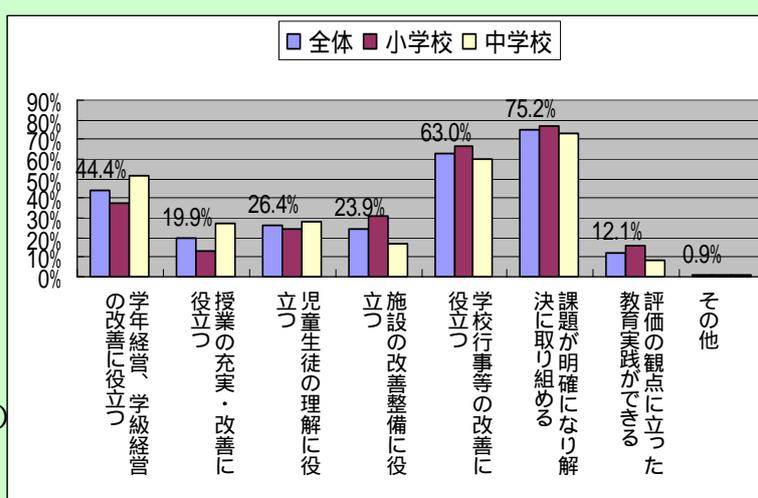


図3 学校評価への積極的な取組

【質問4】積極的(意欲的)に取り組んでいる理由は何か

積極的に取り組んでいると回答した教職員数 N = 371
(よく当てはまる n = 59
どちらかといえば当てはまる n = 312)



「学校評価に積極的(意欲的)に取り組んでいますか」の質問に、「よく当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した教職員は、小・中合わせて76.5%に上り、約4人に3人の教職員が、学校評価に積極的に取り組んでいることが分かりました。学校評価に積極的に取り組んでいると回答した全教職員(371人)に、その理由を尋ねたところ、「課題が明確になり、解決に取り組める」を理由にあげている教職員が最も多く、75.2%を占めました。以下、「学校行事等の改善に役立つ」、「学年経営、学級経営の改善に役立つ」と続いています。

このように、多くの教職員が、学校評価は教育活動の改善に役立つと感じています。

ここに注目！

- 積極的に取り組んでいないと回答した教職員は、「評価項目をじっくり検討する時間がない」(61.6%)、「評価が改善に生かされない」(54.5%)を理由にあげている。

【質問5】積極的(意欲的)

に取り組めない理由は何ですか

積極的に取り組んでいないと回答した教職員数 N=114
(どちらかといえば当てはまらない n=109
当てはまらない n=5)

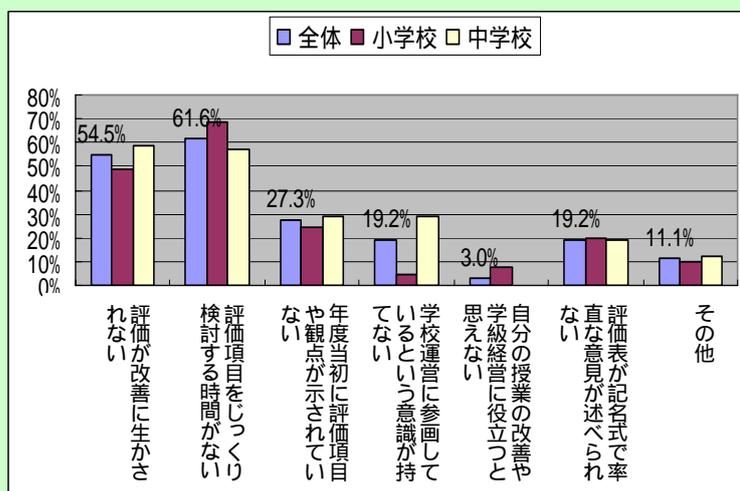


図5 積極的に取り組めない理由

積極的(意欲的)に取り組めないと回答した全教職員(114人)の内、半数以上が、「評価項目をじっくり検討する時間がない」(61.6%)、「評価が改善に生かされない」(54.5%)をその理由にあげています。その他、「評価項目が漠然としていて評価しにくい」等の自由意見も多くみられました。このような意識の根底には、負担感や多忙感、さらには評価されることへの抵抗感等があり、改善への期待が持てないなど、学校評価に対して懐疑的になっている状況があるようです。

学校評価とは、学校が、教育目標とそれに基づく教育活動などの学校運営の状況について自ら評価し、改善に生かす活動のことです。教職員一人一人にとって、評価が学校の改善に生かされているという充実感、達成感が味わえる取組とは、どのようなものなのでしょう。学校評価システムを生かして学校経営の改善を図るには、どのようにすればよいのでしょうか。

自分が評価したい、されたいと思える学校評価を目指し、全ての教職員が協働して教育活動に取り組めるよう、今一度、それぞれの学校に合った学校評価システムの在り方を見直してみましょう。

自分が評価したい、されたいと思える学校評価を目指して

事例1 マネジメントサイクルを生かした学校再生

【中学校の事例】ばらばらの方向を向いて指導に当たっていた教師が、P D C Aサイクルを意識した取組を通して、一緒に話し合い、協働して取り組む中で問題意識の共有化を図っています。学校評価システムによって、教職員一人一人の力が一つにまとまっています。

Plan(計画) Do(実践) Check(評価) Action(改善)を繰り返すこと。

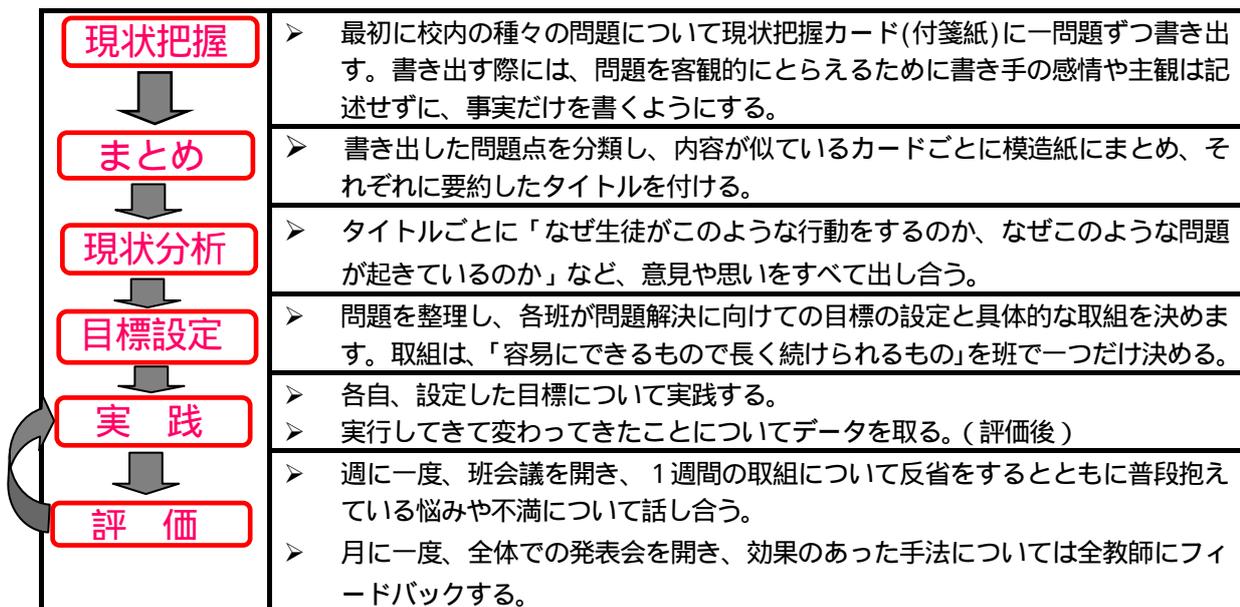
この中学校では、数年前まで、生徒同士のつながりだけではなく、教師と生徒との信頼関係、教師同士の連携が強いとは言えず、校内に多くの問題を抱えていました。学校が落ち着かないときこそ、教師に組織としてのまとまりが求められるのに、教師は自らの「価値観や経験、勘」を頼りに、個別に生徒の指導に当たっていました。一人一人の教師は奮闘し、自分なりにできることを精一杯取り組んでいましたが、教師間の動きはばらばらで、学校の状況は一向に改善されませんでした。教師は生徒が起こす問題行動の処理で多忙を極め、憔悴しきっていました。

そんな中、この中学校は茨城大学教育学部講師の笠井喜世氏を講師に迎え、笠井氏が提唱する「テトラS」という手法を取り入れた取組を行いました。

(1) 短いスパンでのP D C A

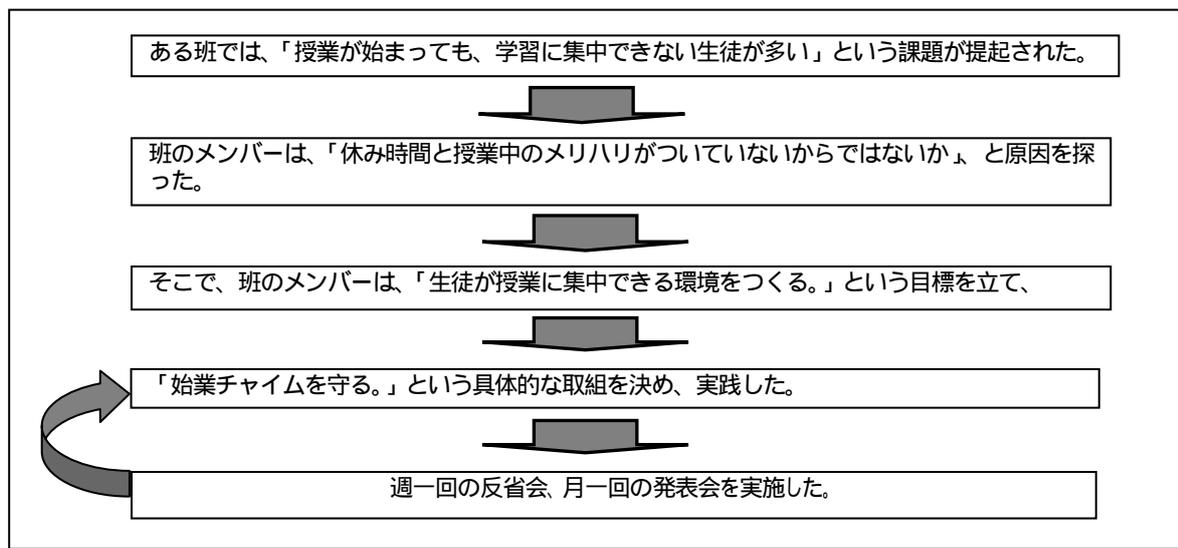
4月、笠井氏の指導により、まず、校長、教頭、生徒指導主事、教育相談担当、人権教育担当を本部に据え、本部教師を除く全教師を、1班6～7人ずつの四つに班分けしました。班は、学年や担当教科、年齢、在籍年数などを全く考慮せず、「くじ」により決定し、班長は各班の話し合いにより選出しました。

班のメンバーは、以下の図のように、「現状把握」から各班の目標を決め、実践、評価を短いスパンで実施しました。



「テトラS」…テトラはギリシャ語で「4」の意味、SはSchool Subject Support Systemの頭文字Sをとった名称。

この中学校では、話し合いの結果、4班の内3班が「始業チャイムを守る」を取組目標に決め、他の1班は「一日一回は生徒をほめよう」を目標に取り組みました。



当初、この取組は、成果が実感できず、一人一人の教師にとって決して有意義なものと感じられるものではありませんでした。「本当にこのようなことで、学校が良くなるのか？」と半信半疑で取り組む教師や「ただでさえ学校は忙しいのに、なぜさらに業務を増やすのか？」というような消極的な態度をみせる教師も少なくありませんでした。

実践を進めていく中、週に一度、班ごとの反省会(班会議)と、月に一度の発表会が必ず持たれました。反省会では、1週間の取組の反省と実践上の悩みや不満などを出し合いました。また、効果が上がってきたことなども確認し合うことができました。反省会は回を重ねていくうち、取組をしていく中で抱えている悩みを相談する場、効果の上がったことを確認し共有できる場となっていきました。教師は、学年を超えた共通の問題について他の教師の意見を聞かなかで、「成果」や「悩み」、「不満」等を共有することができました。

週一回の反省会だけではなく、月に一度、班がこの1か月取り組んできたことと生徒の様子について情報交換(発表会)を行いました。班会議では、班内の教師の取組状況については確認ができましたが、他の班の取組状況等について詳細を知ることはできませんでした。しかし、月に一度の発表会は、他の班の取組状況や全教師が同じ悩みや不安を抱えながらの取組であることを改めて理解し、確認できる良い機会でした。班ごとに効果のあった「生徒との関わり」や「対応」、「今抱えている問題」や「悩み」等を発表する、月に一度の発表会は、次第にそれぞれの取組について互いに認め合う場となっていきました。

それら一つ一つの取組の成果が全教師にフィードバックされるに至り、一人だけで指導に当たっているという孤独感は反省会や発表会を重ねるにつれ薄れていきました。

(2) 成果のデータ化

1学期頃までは何も変わらず、取組の成果を実感できるまでには至りませんでした。しかし、2学期も半ば頃になると、「何となく生徒が変わってきた。」という声が反省会

や発表会でも聞かれるようになりました。

この頃、笠井氏より、「何となく生徒が変わってきた。」というような感覚的な成果の確認ではなく、必ずデータをとるように指導を受けました。「始業チャイムを守る」という具体的な取組を続けている教師は、始業時に着席していない生徒の数をチェックし、その数をデータ化していきました。データ化することで、反省会の場では「何となく生徒が変わってきた。」という報告から「始業時に着席していなかった生徒は 人から 人になった。」という具体的な成果が、数値でも明らかにされました。

データをとることで、何よりも教師自身が成果を確認することができ、取組への充実感を実感することができたのです。充実感は取組への自信にもなりました。また、データをとることは、一人一人の生徒をよく見ることにもつながりました。

2学期末の発表会には、寸劇で指導の場面を紹介するなど、発表内容を工夫する班もみられました。やがて、発表会自体も学校としての盛り上がりをもせるようになり、このころには班内の教師同士のまとまりが、明らかに現れてきました。個々の取組はささやかで小さなことであっても、成果をきちんと評価し積み重ねることによって、学校全体で生徒指導のノウハウが蓄積されていきました。今までばらばらの方向を向いて指導に当たっていた教師が、一緒に話し合い、協働して取り組む中で問題意識を共有できるようになりました。教師の関係が変化すると、それが生徒にも敏感に伝わることを、教師自ら感じることができました。

この実践は、教師が日々の教育活動の中に、無意識のうちにP D C Aのマネジメントサイクル（特にC、Aを重点とした）の実践をし続けた事例だと思われます。実践を通して、忙しくて、時間を確保して話し合うことの大切さや評価の大切さ、P D C Aサイクルの意義を教師自身が実感できた取組であったと思われます。

この事例から学ぶこと！

- P D C Aのマネジメントサイクルが、1週間単位、1か月単位で実践されたことです。
- グループの取組を一つに限定し、グループ単位で取り組んだことです。
- 取組は、誰にでも容易で長続きするものであったことです。
- 成果をチェックし、数値化したことです。



教師が同じ目的を持って実践し、評価し合うこのシステムは、組織が協働して目標に向かう取組を目指す学校経営にも通じるものです。

事例2 外部評価の実践とその活用

【小学校の事例】学校の重点目標に照らして、教職員、児童、保護者による評価の結果から課題を焦点化し、改善策を示しています。また、評価結果を積極的に公表して、改善策や対応策について説明しています。

(1) 学校のビジョンづくりと取組状況の説明

平成14年12月に、保護者や地域の方々、教職員を対象に、この小学校はどんな学校であってほしいか、また、どんな子どもに育ててほしいか、その意識の実態を把握するためにアンケート調査を行いました。

外部評価の実施と活用

実施時	目的	内容	対象
H14.12	学校教育目標に照らして重点をおきたい内容について意見を聞く	アンケート実施	教職員 保護者 地域の方
H15.4	学校経営の重点について共通理解を図る	15年度重点化構想並びに「小はこんなことに努力します」作成	教職員 保護者
H15.5	学校の取組の様子について理解を得るための情報提供	「学校だより」の様式変更	教職員 保護者
H15.12	学校経営の重点化構想に基づいた学校の取組の様子について意見を聞く	アンケート実施	教職員 保護者
H16.2	アンケートの結果に基づいて各校務分掌の立場から考察し、次年度の構想につなぐ	考察のまとめ	教職員
H16.4	学校経営の重点について共通理解を図る	16年度重点化構想並びに「小はこんなことに努力します」作成	教職員 保護者
H16.4~	学校の取組の様子について理解を得るための情報提供	「学校だより」による学校の取組紹介	教職員 保護者 地域の方
H16.12	学校の取組についての理解促進	一日学校公開	保護者 学校評議員
H16.12	学校経営の重点化構想に基づいた学校の取組の様子について意見を聞く	アンケート実施	教職員 児童 保護者 学校評議員

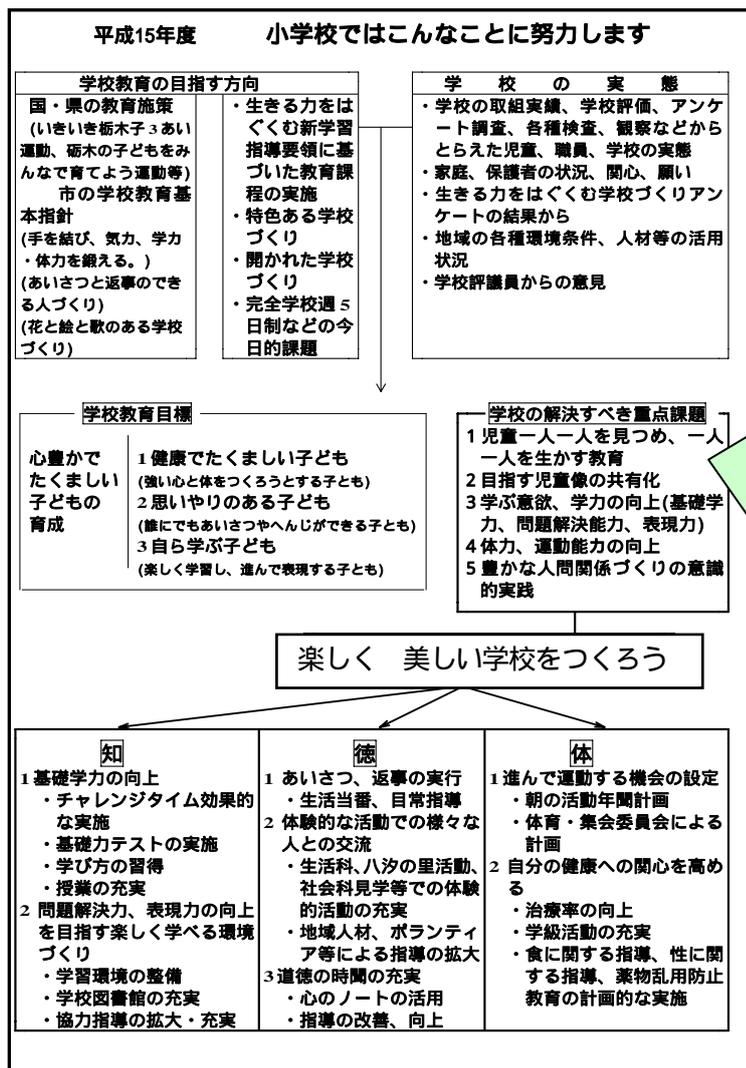
は外部評価

さらに、学校評議員からの意見を聞きながら、学校経営構想を見直しました。そこから、学校が解決すべき重点課題を設定し、「小学校ではこんなことに努力します」(P14 図6参照)という保護者向けの学校経営方針を作成しました。この経営方針に示した重点課題と改善に向けた具体策については、教職員の共通理解を図るために、年度当初の職員会議で説明するとともに、PTA総会で保護者にも資料を配付して説明しました。さらに「学校だより」の様式も変更し、学校の重点課題に取り組む様子を知らせてきました。もちろん、保護者だけではなく、児童にも授業や学校行事等あらゆる場面を通して学校の重点課題解決に向けた具体策の意識化を図ってきました。

(2) 教職員、児童、保護者の三者による評価

12月には、重点課題に取り組んできた事柄について教職員、児童、保護者の三者によ

る評価を行いました。教職員も保護者も同一項目で評価し、児童も重点課題に対する取組について自己評価しました。



次ページ図7、8、9は、平成16年12月に実施された、教職員、児童、保護者のアンケート結果と、その分析をもとにした考察を学校通信で知らせたものです。

この小学校では、下の資料1のようなアンケート用紙を作成し、生きる力をはぐくむ学校づくりへの要望を把握するため、保護者、地域の方の関心、願い等について調査を行いました。

さらに学校評価や保護者、地域の方のアンケート調査、各種検査、観察等のデータをもとに、学校のビジョンを作成し、取り組むべき重点課題を設定しました。

図6 保護者向け経営方針説明資料

【資料1】 ビジョンづくりに役立つ保護者へのアンケート例

1	あなたのお子さんがどんな子どもに育ってほしいと思いますか。 特に望むものを次の中から5つまで選んで を付けてください。 その他何かありましたら () にお書きください。 () よく勉強する子 () 自分の考えが言える () 考えて行動できる子 () あいさつがよくできる子 () 言葉遣いがよい子 () 素直な子 () 仲良くできる子 () 思いやりのある子 () 物事の善悪が分かる子 () 親の言うことをよく聞く子 () 決まりや約束を守れる子 () ねばり強く最後までがんばる子 () たくましい子 () 明るくのびのびとした子 () よく働く子 () 進んで読書する子 その他()
2	本校がどんな学校であってほしいと思いますか。 特に期待するものを次の中から3つまで選んで を付けてください。 その他何かありましたら () にお書きください。 () 学力をしっかり付ける学校 () あいさつや言葉遣い等がしっかりしている学校 () 心の教育を大切にする学校 () 健康づくりを推進する学校 () 一人一人を大切にする学校 () 子どもが自ら進んで活動することを進める学校 () 地域に開かれ、地域と一体となって教育を推進する学校 その他()
3	本校の教育全般について、感想・意見・提案などがありましたらお書きください。

教職員、児童、保護者の三者が、それぞれ同一項目で評価することで、教職員の評価だけでは気付かなかった成果や課題が明らかにされました。また、三者の集計結果を整理、分析していくことで、それぞれが課題と感じている重点項目について把握することができました。重点課題として実践してきた取組に成果がみられなかった点については、「なぜ、成果につながらなかったのか」、「なぜ、三者のアンケート結果が異なるのか」、職員会議等の場でその原因を探っていきました。さらに問題を整理し、改善を図るべく具体的な改善策を策定しました。策定された改善策は、次年度の重点課題のなかに盛り込まれています。

この小学校では、ただ学校評価を行うのではなく、図 10 のように、評価結果をもとに次年度取り組む重点項目づくりに生かしています。

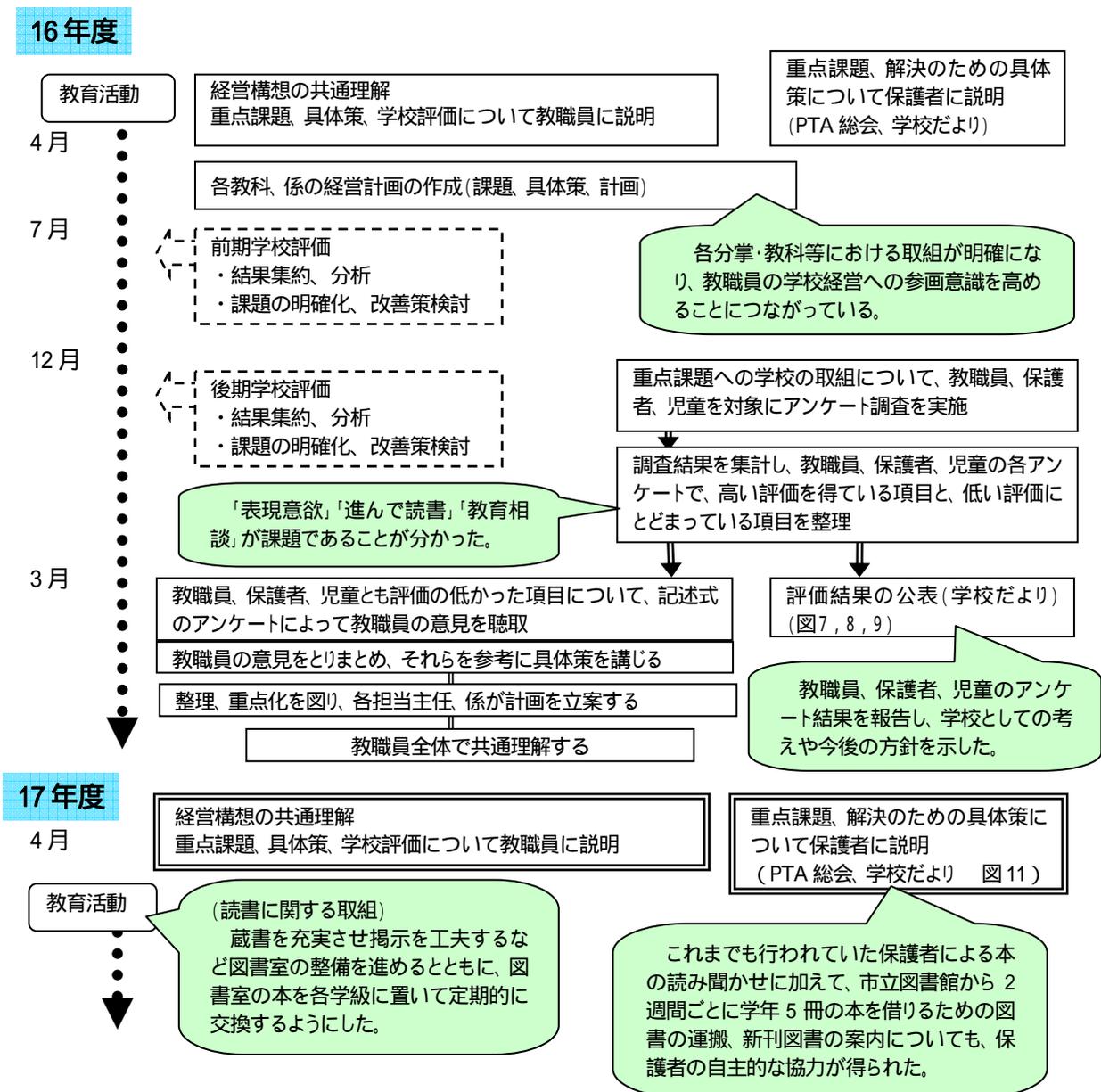


図 10 学校評価の流れ

(3) 評価と公開によって生まれた保護者との連携、協力、協働

この小学校では、年度当初のPTA総会時に、「小学校ではこんなことに努力します」という説明資料(P14 図6)を保護者に提示し、取り組むべき重点課題を知らせてきました。また、これらの取組について、12月にアンケート調査(評価)を行うことを伝え、学校は、正しく評価をしてもらうために、「学校だより」や「保護者会」、「学校開放日」、「学級通信」などを通して学校の取組について知らせてきました。



今年度は、子どもの基礎・基本の定着に力を入れていきます。特に「読む力」、「書く力」、「計算する力」の育成を図ります。そのために学校では、・・・を行います。

平成16年度末には、図7、8、9(P15)のように、評価の集計結果とその分析結果を保護者に伝え、平成17年度のPTA総会時には、集計結果をもとに、新たに「今年度はこんなことに努力します」(図11)を保護者に提示しました。このように情報をきちんと保護者に伝えることで、重点課題解決のための具体策に掲げられた「本に親しむ機会をつくる」について、保護者からの協力が得られました。保護者が、市立図書館から2週間ごとに学年5冊の本を借りるための図書の運搬や、それらの図書の案内を買って出てくれたのです。

平成17年度は、保護者も教職員も「児童が本に親しむための教育活動」に協働して取り組んでいます。

昨年度の評価結果を踏まえた重点課題と、解決のための具体策を示しています。17年度は、読書への関心・意欲を高めることを新たな重点課題に掲げ、児童が本に親しむための教育活動や条件整備の充実に取り組んでいます。

今年度はこんなことに努力します 平成17年4月20日

<p>学校教育の目指す方向</p> <p>国・県の教育施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きる力をはぐくむ学習指導要領に拠る教育課程の実施 特色ある学校づくり 開かれた学校づくり 外部評価の実施 特別支援教育への移行 いきいき栃木っ子あい運動 栃木の子どもをみんなで育てよう運動 <p>学校教育基本指針</p> <ul style="list-style-type: none"> 手を結び、気力、学力、体力を鍛える。 絵と歌と花のある学校 <p>学校教育目標</p> <p>心豊かで たくましい 子どもの育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康でたくましい子ども (強い心と体を作るうとする子ども) 思いやりのある子ども (誰にでもあいさつや返事ができる子ども) 自ら学ぶ子ども (楽しく学習し、進んで表現する子ども) <p>学校の実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の取組実績、学校評価、アンケート調査、各種検査・調査データ、観察からとらえた児童、教職員、学校の実態 保護者、学校評議員からの意見 地域の各種環境条件、人材等の活用状況 学習障害等特別支援事業実施校 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>学校の重点課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 表現力の向上 (1) 自分の気持ちや考えを進んで表現する意欲を高める。 (2) 表現技能を身に付ける。 (3) 表現の機会を設ける。 読書への関心・意欲を高める。 健康・安全への関心を高め、行動できるようにする。 教育相談体制の充実と望ましい人間関係をつくる。 個に応じた指導を充実する。 (特別支援教育の啓発と実施) </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>課題解決のための方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童一人一人の姿を知・徳・体の各面から多様にとらえ、一人一人の特性を生かした指導の一層の充実を図る。 全校職員が課題意識を共有し、学校経営への参画意識をもって校務を遂行する。 効果的な教育活動展開のための物的・人的条件整備を行う。 学校教育の質的向上を図るため、家庭・地域・関係機関との一層の連携を進める。 </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">重点課題解決のための具体策</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">徳</th> <th style="width: 33%;">知</th> <th style="width: 33%;">体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 相談ポスト活用、相談コーナーの設置などいつでも、だれにでも相談できるしくみをつくる。 本に親しむ機会をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書の効果的実施 てんとう虫の会による読み聞かせや朗読 学級文庫図書の定期交換 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちを書いたり、話したりする力を高める学習活動を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> 日常の授業での表現の場づくり 国語科言語活動の授業の工夫 道徳の時間に気持ちや考えを表現する場を大切にする。 一人一人の学習状況にあった指導の工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ティームティーチングなどの授業研究 どんぐり学級を生かした指導 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 自分の健康やに関心を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果活用 がんばりカード活用 養護教諭や外部専門講師とのティームティーチング 授業参観時の親子授業 </td> </tr> </tbody> </table>	<p>学校の重点課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 表現力の向上 (1) 自分の気持ちや考えを進んで表現する意欲を高める。 (2) 表現技能を身に付ける。 (3) 表現の機会を設ける。 読書への関心・意欲を高める。 健康・安全への関心を高め、行動できるようにする。 教育相談体制の充実と望ましい人間関係をつくる。 個に応じた指導を充実する。 (特別支援教育の啓発と実施) 	<p>課題解決のための方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童一人一人の姿を知・徳・体の各面から多様にとらえ、一人一人の特性を生かした指導の一層の充実を図る。 全校職員が課題意識を共有し、学校経営への参画意識をもって校務を遂行する。 効果的な教育活動展開のための物的・人的条件整備を行う。 学校教育の質的向上を図るため、家庭・地域・関係機関との一層の連携を進める。 	徳	知	体	<ol style="list-style-type: none"> 相談ポスト活用、相談コーナーの設置などいつでも、だれにでも相談できるしくみをつくる。 本に親しむ機会をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書の効果的実施 てんとう虫の会による読み聞かせや朗読 学級文庫図書の定期交換 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちを書いたり、話したりする力を高める学習活動を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> 日常の授業での表現の場づくり 国語科言語活動の授業の工夫 道徳の時間に気持ちや考えを表現する場を大切にする。 一人一人の学習状況にあった指導の工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ティームティーチングなどの授業研究 どんぐり学級を生かした指導 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の健康やに関心を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果活用 がんばりカード活用 養護教諭や外部専門講師とのティームティーチング 授業参観時の親子授業
<p>学校の重点課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 表現力の向上 (1) 自分の気持ちや考えを進んで表現する意欲を高める。 (2) 表現技能を身に付ける。 (3) 表現の機会を設ける。 読書への関心・意欲を高める。 健康・安全への関心を高め、行動できるようにする。 教育相談体制の充実と望ましい人間関係をつくる。 個に応じた指導を充実する。 (特別支援教育の啓発と実施) 	<p>課題解決のための方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童一人一人の姿を知・徳・体の各面から多様にとらえ、一人一人の特性を生かした指導の一層の充実を図る。 全校職員が課題意識を共有し、学校経営への参画意識をもって校務を遂行する。 効果的な教育活動展開のための物的・人的条件整備を行う。 学校教育の質的向上を図るため、家庭・地域・関係機関との一層の連携を進める。 								
徳	知	体							
<ol style="list-style-type: none"> 相談ポスト活用、相談コーナーの設置などいつでも、だれにでも相談できるしくみをつくる。 本に親しむ機会をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 朝の読書の効果的実施 てんとう虫の会による読み聞かせや朗読 学級文庫図書の定期交換 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちを書いたり、話したりする力を高める学習活動を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> 日常の授業での表現の場づくり 国語科言語活動の授業の工夫 道徳の時間に気持ちや考えを表現する場を大切にする。 一人一人の学習状況にあった指導の工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ティームティーチングなどの授業研究 どんぐり学級を生かした指導 	<ol style="list-style-type: none"> 自分の健康やに関心を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> 健康診断結果活用 がんばりカード活用 養護教諭や外部専門講師とのティームティーチング 授業参観時の親子授業 							

図11 保護者向けの説明資料

この事例から学ぶこと！

1 評価者(保護者や地域の方)に、学校の教育目標や経営方針、日ごろの教育活動等について十分な情報提供を行ったことです。

情報提供の方法

- 学校だより
- 学級通信
- P T A 総会(保護者会)
- W e b ページ
- 学校評議員会 等

2 保護者や地域の方にも、学校の教育活動について評価してもらえるように、評価項目、評価基準をあらかじめ示していたことです。(成果を評価する)

- 評価項目を示すことで、保護者が参加する学校の行事や教育活動の評価を評価項目に従って評価することが可能となります。
- 学校開放日の授業参観や運動会等の行事にアンケート形式で評価してもらうことができます。

3 児童にも、学校の重点課題に1年間どのように取り組んできたかを自己評価させたことです。

4 学校が常に評価を生かして改善し続けていることです。



今年度学校が重点的に取り組む事柄について、あらかじめ、保護者や児童に説明し、取組の様子を様々な手段で伝え、評価を得ています。その評価結果の公表を通して、保護者が学校と一つになって子ども達を育てていこうとする気運が高まってきている事例です。

事例3

評価票を生かした検討会の工夫

【中学校の例】学期毎に行事検討会を開き、学校の教育活動について、話し合いを通じた評価と、個人での評価を行っています。行事検討会では、成果及び課題の確認と改善策について検討されました。検討された改善策は、「すぐできること」と「次年度に生かすこと」に分類され、「すぐできること」はすぐ実践に移し、「次年度に生かすこと」は学校行事の改善に生かしています。

(1) 1学期の評価活動

この中学校では、平成16年1学期の様々な教育活動の実践について評価するために、7月初旬に第1学期の行事検討会を開きました。行事検討会では、全体会で検討会の進め方について説明し、その後、学年ごとに分科会に分かれて1学期の反省を行いました。

(図12参照)

分科会では、学校行事、儀式的行事、学習指導、生徒指導について、「生徒の反応はどうだったか」、「成果は何だったのか」、「課題はどんなことなのか」、「より良いものにするための改善策」について協議しながら評価していきました。(P20 図13参照)

次に、分科会で評価した視点を生かしながら、個人で、健康安全・体育的行事、勤労生産奉仕的行事及び生徒活動等について、「生徒の反応はどうだったか」等の視点から、具体的な改善のために、記述形式の評価を行いました。(P20 図14参照)

第1学期行事検討会

1 期日 平成16年7月 日(月)

2 内容および日程

(1) 全体会 会議室
・あいさつ・日程説明・班編制と役割、使用教室等の連絡

(2) 分科会 会議室
・行事別分科会に分かれて行う。・今学期の反省を行う。

3 分科会の構成

分科会	1年	2年	3年	場所
学校行事				1学年 ・職員室
儀式的行事				2学年 ・保健室
学習指導				3学年 ・会議室
生徒指導				

各分科会で反省する行事
(学校行事等で来年度の教育課程で改善できるもの・その方法)

<学校行事>
宿泊学習、体験学習、修学旅行、学年経営、進路指導、その他

<儀式的行事>
入学式、始業式、離任式、着任式、終業式、人権週間、全校朝会、その他

<学習指導>
定期テスト、諸検査、教科指導、ノーチャイム、時間割(3学期制)
成績処理・管理、読書、その他

<生徒指導>
登校・下校指導、校内外の生徒指導、校内、郊外巡視活動
個人で提出してください

健康安全・体育的行事、勤労生産奉仕的行事及び生徒活動

<健康安全・体育的行事>
避難訓練、予防接種、健康診断、身体計測、スポーツテスト、部活動(関東予選)、給食指導、緊急救命教室・薬物乱用防止教室

<勤労生産奉仕的行事及び生徒活動>
美化旬間、クリーン作戦、清掃、ワックス、除草等

評価項目に軽重を持たせ、班で評価するものと個人で評価するものとに区別しました。重点的に改善を図る教育活動については、班で成果と課題を出し合い、それらの課題を整理し、改善策を考えました。

図12 1学期行事検討会

さらに、2学期以降に取り組むべき改善策について、教務主任を中心に、「すぐできること」と「次年度に生かすこと」に分類し、全教職員に発表しました。

第1学期の反省記録用紙

分科会 ()

反省行事等 _____ 記録者 _____

継続 (x)

1 生徒の反応

2 成果

3 課題(よりよいものにするための改善点)

図13 分科会用の評価用紙

教育課程編成資料(1学期)個人提出用 提案者()

1 校務分掌関係()

効果の上がったこと

改善するなら

目的(何のために)	実施方法(どうする)	改善案(どう工夫する)

2 本年度の重点指導(服装・挨拶・清掃)

効果の上がったこと

改善するなら

目的(何のために)	実施方法(どうする)	改善案(どう工夫する)

3 その他

効果の上がったこと

改善するなら

目的(何のために)	実施方法(どうする)	改善案(どう工夫する)

図14 学校評価用紙(個人提出用)

集計結果

<p>教育課程編成資料(1学期)</p> <p>校務分掌</p> <p>効果の上がったこと</p> <p>道徳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生命の尊重」に重点を置いて各クラスで授業を展開していただいたこと。 <p>人権教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体構想図ができたこと。 <p>美化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モップの使用により清掃分担の少人数化ができた。 ・除草作業では先生方との協力と計画的な実施(年計への位置付け)ができ、効果が上がったと思う。 ・ワックスがけでは美化委員の活躍で手際よくできた。 <p>改善するなら</p> <p>人権教育</p> <p>教職員向けの人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師を見つけて講話をお願いする。 <p>美化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外掃除:人数調整、外掃除を5~6人出す(草の多い) 	<p>本年度の重点指導</p> <p>効果の上がったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつがよくなるようになってきた。生活委員会のあいさつ運動が定着してきて、意識が高まってきた。 ・ほとんどの生徒が大きな声であいさつができる。 ・あいさつがだんだんできるようになってきた。 ・かかとをつぶす生徒が少なくなってきた。 ・あいさつは多少よくなったと感じる。 ・自分からあいさつをする生徒、街角で行き会ってもスムーズにあいさつができる生徒が目立ってきた。 <p>改善するなら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装:夏季期間中、登校後体操着になってもよいというのはとてもよい。しかし、その体操着の着方がよくないので指導していきたい。服装の現状や正しい服装について説明をして、担任だけではなく全職員で服装の確認(チェック)をする。 ・清掃:教師がいなくとも、しっかり取り組める姿勢を普段から指導していきたい。 ・もっと清掃をしっかりとさせる:清掃場所の必要人数を確認して責任を持たせる。
--	--

図15 教育課程編成資料(1学期)

「すぐできること」

「次年度に生かすこと」に分類

2学期「すぐできること」の**実践**

この取組の特徴の一つは、評価票にA B C等のランクを設けず、記述式を採っていることにあります。「改善に生かす」ことを目指して、まず各学年で話し合い、個人でも見直し、それらの結果を、図 15 (P20) のように集約して発表しています。これによって、すぐにできることを全職員が明確に共通理解し、2 学期以降に取り組んでいます。

(2) 2 学期の評価活動

12 月末に開いた第 2 学期の行事検討会は、1 学期同様の形式で行われました。分科会では、1 学期の反省用紙の記録を参考に、「すぐできること」についての取組状況の反省と、2 学期以降の各種行事や教育活動についての成果と課題について話し合いが持たれ、「次年度に生かすこと」が確認されました。

2 学期の分科会のメンバーは、図 16 のようなメンバー構成で実施されました。ここでは、2 学期に行われた学校行事に関する評価及び改善策の検討のほか、1 学期末にまとめた教育課程編成資料(P20 図 15)を持ち寄り、「すぐにできること」への取組状況についての評価も、話し合いを通して行われました。

第 2 学期行事検討会					
3 分科会の構成					
分科会		1 年	2 年	3 年	場 所
A 部会	健康安全・体育的行事 勤労生産奉仕的行事				保健室
B 部会	儀式的行事 学芸的行事				相談室
C 部会	学習指導・集団活動 学年行事等				会議室

責任者 発表者 記録者

部会は、1、2、3 年担当の教師が縦割りに構成され、割り当てられた行事等について評価しました。

各分科会で反省する行事
 (学校行事等で来年度の教育課程で改善できるもの・その方法)
 (継続するもの・その改善点)
 < 健康安全 > < 勤労生産奉仕的行事 > 等
 給食指導 愛校活動 清掃 人権週間 全校朝会 総合的な学習の時間 教育相談 読書 各種大会 その他
 < 学年行事 >
 朝読書、学年経営、進路指導、日課、総合的な学習の時間、その他
 < 儀式的行事 >
 始業式、終業式、運動会、合唱コンクール、生徒指導、総合的な学習の時間、その他
 < 学習指導 >
 定期テスト、教科指導、ノーチャイム、時間割 (3 学期制)、成績処理・管理、その他

図 16 第 2 学期行事検討会

平成 17 年度 教育課程編成会議					
分科会		1 年	2 年	3 年	場 所
A 部会	健康安全・体育的行事 勤労生産奉仕的行事				保健室
B 部会	儀式的行事 学芸的行事				相談室
C 部会	学習指導・集団活動、学年行事等				会議室

責任者 発表者 記録者

(第 1 回目 1 月 日 資料の読み合わせ)
 (第 2 回目 1 月 日 基本方針 : 校長指示)
 (第 3 回目 2 月 日 協議・作業) 3 月上旬の完成を目指して
 1 月 11 日 時間厳守 15 : 10 ~ 16 : 40
 (1) 全体会 15 : 10 ~ 15 : 20 : 来年度の予備時数の確認 於 会議室
 (2) 分 会 15 : 30 ~ 16 : 10 (年間行事予定表・教育課程 + 教育課程編成資料持参)

各部会で資料の読み合わせ

- 行事の漏れがないかの確認 ・ 2 学期制に対応できるかの検討
意見交換 観点
- 時間数の確認 (時間数をカットできるか)
- 運営の仕方に工夫はできるか
- 「各学期の反省」「アイデア」「自分の考え」「行事の反省」等を読んで生かせる考えを選択
- 削減できる行事はないか、新設すべき行事はないか

図 17 教育課程編成会議

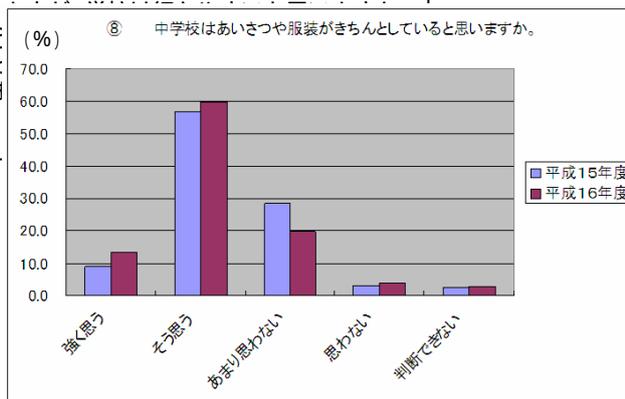
(3) 評価を生かした改善策づくり

第3学期には、第2学期の行事検討会の集計結果を参考に、次年度に生かす具体策や学校が取り組む重点課題(目標)づくりを行いました。図17(P21)にあるように、教育課程編成会議を3回にわたって開催しました。第1回目は、取組状況を把握するために時間を十分にとり、資料を読み合い、意見交換を行いました。その結果を踏まえ、第2回目は、校長が次年度の教育課程編成検討についての基本方針を説明し、第3回目は、次年度の教育課程編成について具体的に協議しました。一方、保護者や生徒にも学校が取り組んできた教育活動に関し、下記の項目でアンケート調査(図18、図19)を行いました。集計結果を第3回目の協議の場に資料として提出し、生徒や保護者の「意見」や「提案」などを大切にしながら次年度の具体策や学校が取り組む重点課題(目標)づくりに取り組みました。

保護者用アンケート項目

学校は教育方針をわかりやすく伝えていると思いますか。
 中学校は一人一人を大切に教育を行っていると思いますか。
 中学校は特色のある学校であると思いますか。
 学力向上の研究成果として進んで学習するようになってきたと思いますか。
 数学科では全学年で少人数指導を行っています。数学を楽しく学習できていると思いますか。
 国際理解教育の成果として世界の出来事に興味関心をもつようになってきたと思いますか。
 強歩大会は 中学校の行事として適切であると思いますか。
 生徒はあいさつや服装がきちんとできていると思いますか。
 授業参観や、諸行事、用事等で学校に行く機会があり、学校だよりやホームページで学校の様子を知らせよう、中学校は家庭、地域に対して開かれた学校になる、ホームページ「 中学校」をご覧になったことがございましたら、ご意見ご感想がありましたら、お書きください。

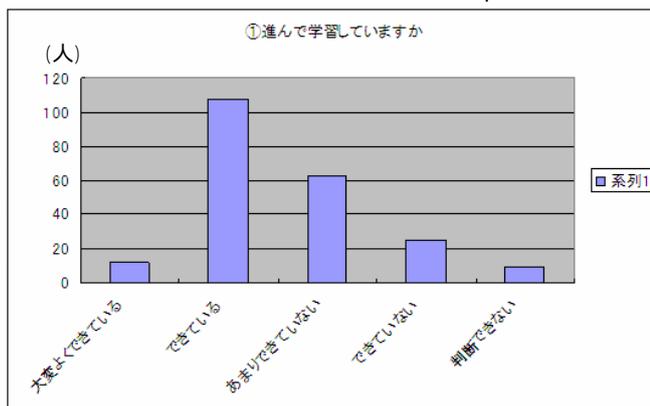
図18 保護者用アンケート項目とその集計結果



生徒用アンケート項目

進んで学習していますか。(できていますか。)
 学校では心身を鍛える機会が多いと思いますか。
 学校ではまわりの人を大切にしていると思いますか。(大切にされていると思いますか。)
 世界の出来事に興味関心をもつようになってきましたか。
 中学校では悩みや相談をよく聞いてくれると思いますか。
 運動会は楽しかったですか。
 音楽コンクールは楽しかったですか。
 あいさつがきちんとできていると思いますか。
 服装がきちんとできていると思いますか。
 清掃がきちんとできていると思いますか。
 学校だよりをよく読んでいますか。
 ホームページ「 中学校」を見たことがありませんか。
 来年もやってみたいと思う、今年の学校行事を来年もやってみたいと思う、新しい行事があった

図19 生徒用アンケート項目とその集計結果



この事例から学ぶこと！

- 1 学校評価が、学校経営の改善に生かすためのものであることを明確にし、教職員が評価することの充実感を味わえる学校評価であったことです。
- 2 改善に生かす評価票の工夫がなされていたことです。

評価票の工夫

- 評価の観点を、「生徒の反応はどうだったか」、「成果は何だったのか」、「課題はどんなことなのか」、「より良いものにするための改善策」に絞っています。
 - A、B、C、D等の基準を出さずに文書記述にしました。
- 3 話し合いで出された改善策については、一覧にまとめ、「すぐにできること」「次年度に生かすこと」に分類整理し、「すぐにできること」は、次学期以降に取り組んだことです。



学校評価は、ともするとAやBやCが何%と区別することに労力が注がれがちですが、本来は、重点課題の取組の問題点を把握し、改善策を検討することがねらいのはずです。この事例では、評価活動がこの点に焦点を当てているので、教職員の学校評価への意識も高まっています。

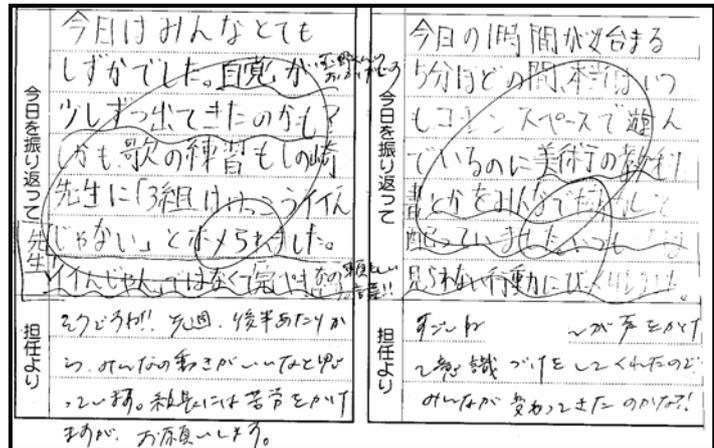
事例4

日常的な教育活動に評価を生かす取組

【中学校の例】教師は、日々の教育活動について、評価、改善の作業を繰り返しています。この中学校では、日々の教育活動を学校評価の視点でとらえ、実践と評価を繰り返しています。改善に生かす評価を繰り返すことで、教員の資質向上が図られています。

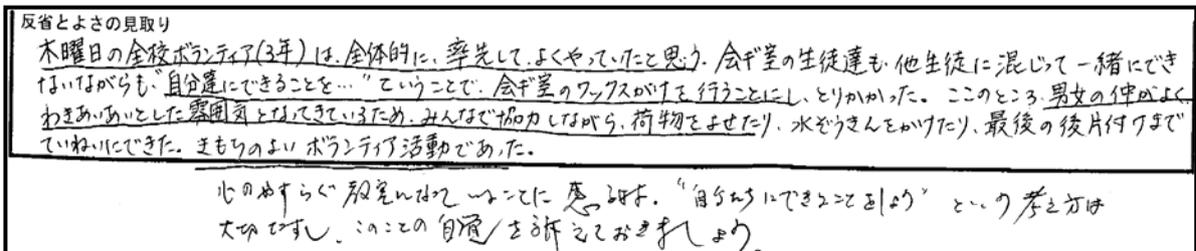
(1) 生活ノートによる評価

教師による観察評価のみに頼らず、担任が生徒の生活ノートを毎日見て、コメントを記入します。また、教師は昼休みも生徒の学習の面倒を見たり一緒に遊ぶことを通して、生徒の気持ちや実態を把握し、指導に生かしています。



(2) 実施記録による評価

実施記録(週案)では、授業の内容が分かるように授業で使用した学習プリントを添付して授業の反省を記入するなど、自己評価ができるような工夫がされています。また、生徒の良い点を見取り、指導にどのように生かすかを具体的に記入するようにしています。



(3) 行事評価

行事ごとに全教職員と各クラス2名の生徒による評価を実施します。各行事の実施後、直ちに教職員用と生徒用2枚を学級担任に配付し、「観点別による3段階評価」、「感動・感激した内容」、「改善点」をそれぞれ記入します。これを一覧表にまとめて全教職員に配付しています。改善点は、次年度に生かすことはもちろんですが、内容によっては、直ちに検討し実施するようにしています。

平成17年度の合唱コンクール集計結果には、「PTAの係と教職員の担当との仕事内容の確認が不足していた。」という改善を求める意見が出されました。行事担当者が検討し、「PTAの係との連絡調整係を置いて、打ち合わせの機会を持つ」ことを決め、次年度にこのことを生かそうと今年度の実施計画書に付け加えました。このように、改善点に気付いた時点で、即座に修正を加えることで、次年度用の仮計画書を作成するこ

とができました。

また、教師と生徒の双方から、聴き方のマナーについての指摘があったため、次の週の打ち合わせで全教職員に共通理解を図り、各学年集会で話の聴き方についての指導を行うなど、すぐに全校体制で指導に当たりました。

さらに、保護者や地域の方からのアンケート結果についても、学校だより等で公表しています。(図 20 参照)

平成17年度
各行事・活動評価、改善カード(教職員用)

1 行事・活動名 第15回ミュージック 中2005
2 実施日 平成17年6月 日(土) 於: 文化会館

評価内容	よい	普通	不十分	メモ
実施期日	よい 12		改善	
事前の準備及び周知状況	13	4	2	
生徒の態度及び活動状況	17	1	1	
教師の援助及び指導状況	15	3		
工夫改善・一歩前進状況	15	3		
F中教育関連(協力 自他の 発見 質の高い合唱)	16	2		
3あい運動	13	4		

感動・感激したところ

- ・ 学年が上がるにつれてレベルが上がり、3年生の歌はさすがに迫力があり、すばらしかった。3年生は毎年すばらしい。3年生としての自覚のある歌でした。しっかりやろうとする3年生の意識を強く感じた。すばらしい伝統になっている。など(7人)
- ・ 1年生は元気があり、良かった。態度が良かった。1年生の声の大きさに驚いた。など(4人)
- ・ 生徒が本気になることができる行事を数多く持つことが学校を中心とする好循環を生み出すことに繋がり、中は現在そのようになっている。

改善するところ

審査方法の改善について(4人)

- ・ レベルが同じくらいなので非常に難しい。
- ・ 審査員の数や審査員の人数など、考える必要がある。
- ・ 生徒の審査点は低い。

パンフレットの改善について(4人)

- ・ パンフレットに開閉開式次第を入れた方がよい。(2人)
- ・ 過去の記録・栄光の記録は、プログラムに入れること(2人)

その他

- ・ P T Aの係と教職員の担当との仕事内容の確認が不足していた。
- ・ リハーサル(ステージ)は学年毎で、他の学年が入らない方がよい。
- ・ **すばらしい合唱態度に比べ、他の学年、クラスの合唱時に聞く側がざわざわしていることがあったのが残念でした。(3人)**

平成17年度
各行事・活動評価、改善カード(生徒用)

1 行事・活動名 第15回ミュージック 中2005
2 実施日 平成17年6月 日(土) 於: 文化会館

反省感想内容	普通		
この行事の内容は知っていましたか	知っていた 16		知らなかった
みんなの参加・活動の態度は?	良かった 14	2	良くない
あなたは約束等をよく守ったか	守った 13	3	守らない
行事の目的(友達と助け合い、協力して活動できる)	達成した 13	3	達成しない
あなたにとってこの行事は役に立ったか	良かった 12	4	良くなかった
3あい運動	役だった 12	4	良くなかった

感動・感激したところ

- ・ 3年生と合唱部の人の歌に感動した。
- ・ 2年生の人や3年生の人たちの歌がうまくとても感動した。
- ・ 全クラスとも精一杯歌っていて良かったと思う(3人)
- ・ 優秀賞が取れなくて泣いていた人たちがいた。それだけががんばったことかな、と思いました。優秀賞をとったクラスでは、とてもうれしうでした。
- ・ クラスが1つになり、優秀賞を取れて良かったと思う。

改善するところ

- ・ **合唱を聴く態度を気をつけていきたいと思います(2人)**
- ・ **3番目に歌う組も小ホールを使わせてほしい。**
- ・ 「やる時はやる」これをみんなきちんと守っていきたいです。

教師の評価、生徒の評価結果から、すぐ改善できることについては改善に生かしています。また、実際に活動している生徒の意見を最大限取り入れるようにしています。

とにかくすばらしい
感動!!! 涙があと来た。
子供達の歌がすばい
それと先生の下で先生の力も
感謝です
この伝統を守り続けたいです
皆が一緒に頑張る
クラスが1つになって
です。
"ありがとう"

図 20 保護者のアンケート

(4) 授業評価(授業研究会)

学校が元気になる授業評価

この学校では、平成12年度より、「授業を工夫改善し、生徒が確かな学力を定着できるようにする」ことを目指し、学校課題と一体化した研究を推進しています。

平成17年度は、年間4回の研究授業と授業研究会を実施し、研究授業では、教科の枠にとらわれない授業を展開しました。中学校では、従来、授業研究会といえば中学校教育研究会等における教科に特化した、校外での授業研究に関心が向きがちでした。校内においては教科の枠を超えた研究会は、「道徳」や「特別活動」の授業に限られることが多かったと思われます。しかし、この学校での取組は、研究の母体を学年とし、学習指導案の作成や資料の準備、印刷まで、学年の教師が教科部会と協力して進めています。このように、学習指導案の作成では、教科部会ばかりではなく、学年部会でも検討するようになり、他教科の特徴を参考にするなど充実してきています。「分かる授業」、「楽しい授業」の展開を図るため、各部会では活発な議論が飛び交い、授業の工夫改善を通じた教師間のコミュニケーションが図られています。指導案検討会を通して、個々の教師が持つ教育観を話し合うことができ、資質の向上が図られ、自信をもって授業に臨むことができるようになっていきます。

研究授業では、部活動顧問、各種委員会の担当、子供会担当等、さまざまな教師がそれぞれの目で生徒の学習状況を見取り、授業者が気付かなかった生徒の「よさ」等に気付いた際には、生徒にその「よさ」を直接伝えて励ましています。生徒は、いろいろな先生方から見守られているという充実感を味わっています。

授業研究会は、全教師が三つのグループに分かれ、「分かる授業」や「楽しい授業」の観点から、授業研究を進めています。授業担当者やその他の担当学年の教師は、多様な角度から、教材内容に関わる指導の具体的なアドバイスが得られることはもちろんのこと、教科を超えた教師の気付きから多くの示唆を得ています。さらに、研究授業や授業研究会に参加した教師は、それぞれその後の普通の授業に、その示唆や気付きを生かして工夫改善しようとする、意欲的な姿勢につながっています。また、参観者の授業を見る目も育ってきています。

小中の連携を図った授業評価

この中学校では、隣接する小学校との連携を深め、教師間の相互交流を図っています。交流日には、一日それぞれの学校に勤務し、総合的な学習の時間や道徳、ときには「教科の授業」に至るまで、ティーム・ティーチングを組んで授業を展開しています。交流日の数日前から授業の内容について協議を行い、教材研究を深めています。また、4回の研究授業の際には、授業参観や授業研究会にも参加し、小学校の視点で授業に対する意見を交換し合うなど、授業を通じた小中の連携が図られています。小学校の教師は、卒業生の成長の様子を直接見ることができ、子どもたちにその成長の様子を伝えていきます。卒業生との交流を通して、子どもたちを見守

っているという教師の姿を伝え、小中が連携して地域の子どもの育成に努めています。

この事例から学ぶこと！

- 1 日常的な教育活動の評価を生かして改善を図っていることです。
- 2 授業改善を図るために、教師の自己評価や相互評価が常に行われていることです。
- 3 学年全員で指導案作成を行い、検討会を通して教師が互いに学び合い、資質の向上が図られていることです。
- 4 保護者が参加する学校行事等については、教職員、生徒、保護者それぞれが評価し、改善に生かしていることです。



学校評価というと、学期末や年度末に行うというイメージがありますが、私たち教師は、常に評価を生かして授業の改善や学級経営の改善を図ろうとしています。ただ、通常はこのような評価活動が、学校評価を実施しているという意識では取り組まれていないところに問題があります。実は、これらも教育活動の改善を図るための立派な学校評価の一つです。

この事例のように、日々の評価活動が学校評価につながるものだという意識を取り組めるといいですね。

事例5 評価結果をもとに話し合いを通して共通理解を深めた取組

【中学校の例】職員研修において、学校評価の結果についての話し合いを行い、評価結果の検討を生かして、次年度に向けた重点目標の共通理解と具体策の検討を行いました。2か年にわたる取組を通して、全教職員の共通理解が協働した取組につながっています。

(1) 平成15年度職員研修

初年度は、年度末の総括的な評価の結果をもとに、全教職員をいくつかの小グループに分けて、「継続していくもの」、「改善しなければならないもの」について話し合いを行い、評価結果の理解と課題の共有化を図りました。

職員研修では、教職員の自己評価の結果と生徒のアンケートなどの回答結果を比較して、努力点の中で、特に力を入れるべき重点目標を明らかにしました。

平成15年度

職員研修 平成15年12月 日(水) 15:20~

学校評価の集計結果から本年度の教育活動を振り返り、次年度の教育計画編成のための一助とする。

- ・結論を出すことより、話し合うことを大切にする。
- ・共通点を探り、何かプラスになることを見つける。

全体会(説明5分)職員室

グループ協議(40分)

グループ編成運動会の縦割りでのA・B・C・D・Eの5グループに分ける

- ・集計結果を見ての感想や意見の発表
- ・継続していくものの確認
- ・改善しなければならないものの確認
- ・その他

全体会(発表15分)職員室

学校がこの1年間取り組んできた七つの努力目標について、44の評価項目を設定して、下記の評価結果の概要に示したように、A、B、C、D、Eの5段階で、教職員の自己評価を行いました。

しかし、教職員の自己評価では、改善に向けた努力が必要と判断される、D、Eと回答した割合は、下の表のとおりいずれの項目も低く、この評価方法では成果や課題は浮き彫りになりませんでした。

【評価結果の概要】

	A 十分達成	B AとCの間	C おおむね達成	D CとEの間	E もう少し努力が必要
(例) 学び方の基本	学習の心構えを徹底させる。(チャイム着席・聞く態度・積極的な発言発表などの実践)			A 0% B 48% C 45%	D 7% E 0%

この例では、D、Eと回答した割合が7%である。

D、Eと回答した割合	16~20%	11~15%	6~10%	0~5%
項目数/(全44項目の内)	1/44	4/44	14/44	25/44

一方、生徒にも、学習、生活、部活動、友人関係の4分野と学校生活全体について、13の項目を設定して、1年を振り返り、A、B、C、D、Eの5段階で評価を行わせま

した。その結果、課題があると推察される、D、Eと回答した割合が、学習の分野で高く、学習面での充実度や満足度が低いことが浮き彫りになりました。(表1参照)

他の項目に比べ、学習指導に関する満足度が低いことが分かりました。

表1 平成15年度 生徒の学校生活に関するアンケート(抜粋) (単位%)

区分	項目	とてもそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	まったく思わない
学 習	今の自分の成績には満足している	3.0	10.2	26.4	37.7	22.7
	この1年間自分なりにがんばって学習してきたか	1.1	16.3	49.6	25.1	7.9
	「できた」「分かった」という喜びを何度も味わうことができた	13.0	33.2	38.6	11.1	4.1
学校生活	学校生活に関して特に心配事や悩み事はない	30.8	27.2	27.5	9.1	5.4
部活動	部活動について、自分なりにがんばって練習に取り組んできたので充実している	33.3	37.7	22.6	3.3	3.1
友人関係	困ったときや悩んだときに相談できる友だちが何人かいる	38.9	36.2	20.0	3.4	1.5
	友だちと話をしたり、いっしょに作業したりするのは楽しい	56.3	31.9	10.4	1.1	0.3
	友人関係でいやな思いをしたことがない	20.7	29.3	32.9	12.0	5.1
全 体	学校生活を総合的に判断して中学校生活を楽しんでいる・充実している・満足している	23.8	42.1	23.0	9.6	1.5

その他、「一斉テストに関するアンケート」(H15 実施)や「家庭学習や通塾に関するアンケート」(H15 実施)からも、次のような現状が明らかにされました。

- ・塾に通っている生徒は第1学年で約5割、第3学年で約8割である。
- ・家庭学習が1時間以内の生徒は全学年で約6割である。
- ・家庭学習の内容は、塾の学習が中心である。

職員研修では、評価結果やアンケートの結果をもとに、七つの努力目標について話し合いが行われました。話し合いを通して、重点目標に対する教職員の意識が高まり、教職員の自己評価の在り方について見直しを図るための建設的な意見が出されました。また、生徒の評価との違いを分析し、重点目標の取組への改善策を検討していきました。

教職員の自己評価については、現在の評価方法や評価項目の設定では、重点目標に対する成果と課題が不明確になりがちであるという意見が多く出されました。特に、達成状況を示す選択肢の5段階の妥当性を検討しました。



さらに、学習の課題を浮き彫りにしていないことが明らかになり、次のように評価項目の修正・追加を行いました。

平成15年度の重点目標のうち、「基礎・基本を身に付ける」については、「ア 学

び方の基本」、「イ 基礎的・基本的内容」の2項目が設定されていました。しかし、「家庭学習や通塾に関するアンケート」の結果からは、「家庭学習が1時間以内の生徒は、全学年で約6割」であることや、「家庭学習の内容は、塾の学習が中心」であること、「今の自分の成績には満足していない」という生徒が多いことなどが分かりました。

そこで、下表のように、新たに「ウ 家庭学習」という項目を設け、家庭学習5か条の習慣付けを重点目標に掲げ、全教職員で取り組むよう共通理解を図りました。

平成 15 年度

学 習 基礎・基本を身に付けさせる	ア 学び方の基本	・学習の心構えの徹底 チャイム着席・あいさつ・聞く態度・積極的な発言発表を生徒に意識させ、実践させる
	イ 基礎的・基本的内容	・朝の自習の充実 基礎・基本(漢字・計算など)の定着を図る ・朝の読書の奨励 落ち着いた生活、読書好きな生徒、読書量の増加



平成 16 年度

学 習 基礎・基本を身に付けさせる	ア 学び方の基本	・「学習の心構え」の、話を聞く態度を育てることを重点とする ・教科と学年の連携による朝の自習の充実と読書の推進をする
	イ 基礎的・基本的内容	・基礎・基本の反復練習と単元ごとの定着を確認する
	ウ 家庭学習	・家庭学習5か条の習慣付けを重点とする

(2) 平成 16 年度職員研修

2年目には、重点目標をあらかじめ絞り込んでから話し合いに臨みました。また、話し合いの小グループも重点目標ごとに分けて行いました。

平成 16 年度	<p>職 員 研 修 平成 17 年 2 月 日 (水) 15:30 ~ 16:45</p> <p>重点目標の達成に向けての共通理解と具体策等の検討</p> <p>Plan (計画)・Do (実践)・Check (評価)・Action (改善) のサイクルで計画 (到達目標等) を発表・説明 実践 評価 (達成状況等の発表) 改善</p> <p>全体会 (説明 10 分) 職員室</p> <p>グループ協議 (50 分)</p> <p>学年をこえて3つの重点目標ごとの3グループを編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各プロジェクトで、どんなことができるか、何をするとよいか。 ・達成状況を目に見えるようにするための方策はあるか。そのためにどんな準備が必要か。 ・育ってきた能力や態度、さらに育てていかなければならない能力や態度の確認や検討。 <p>全体会 (発表 15 分) 職員室</p> <p>次年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の充実と家庭学習の習慣化 (学力アップ) (2) 学校行事と部活動の充実 (感動アップ) (3) いじめの解消とマナーの向上 (心アップ)
-----------------	--

平成 15 年度の話し合いの結果から、「ウ 家庭学習」の項目を設け、家庭学習の習慣化を図る方針が出され、平成 16 年度には、教職員一人一人がこの重点目標達成のために意識した取組を続けてきました。しかし、年度末における学習指導に関する教職員の自己評価は、次ページ表2のような結果でした。

表2 教職員の自己評価の結果

		A	B	C	D
学 習	学び方の基本	10.2%	77.0%	12.8%	0.0%
	基礎的・基本的内容	15.7%	58.1%	26.2%	0.0%
	家庭学習	0.0%	26.4%	70.5%	3.1%

A = 十分達成している B = おおむね達成している C = もう少し努力を要する D = 大いに努力が必要である

「家庭学習」については、自己評価の「C」と「D」を合わせると73.6%になりました。多くの教職員が「家庭学習の習慣化」を課題としてとらえたこととなります。

それでは、成果はなかったのでしょうか？

実は大きな成果があったと私は思います。それは、前年度、職員研修の場で話し合い、検討された「家庭学習の習慣化」を全教職員が「学校が取り組む重点目標」として意識して取り組むことができたことです。

教師一人一人が「家庭学習の習慣化」に一所懸命取り組んだからこそ、評価基準も高くなり「C」評価も多くなったと考えています。ただ、やはり「C」は「C」であることをしっかり受け止め、次年度は全教職員が協働して取り組める具体策づくりにこの評価結果がつながるといいですね。



一方、生徒の学校生活に関するアンケートでは、教職員の自己評価とは逆に、「A」、「B」の回答が数%程度増加している項目が、14項目中11項目に及びました。全体として、昨年度とほぼ同様の傾向か、やや充実度や満足度が高い傾向がみられました。

平成16年度 生徒の学校生活に関するアンケート結果(抜粋)

(単位%)

区 分	項 目	とてもそう 思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう思わ ない	まったくそう 思わない	年度
学 習	今の自分の成績には満足している	3.7	13.2	28.4	32.7	22.0	H16
		3.0	10.2	26.4	37.7	22.7	H15
	この1年間自分なりにがんばって学習してきたか 「できた」「分かった」という喜びを何度も味わうことができた	6.9	30.1	36.4	19.4	7.2	H16
		1.1	16.3	49.6	25.1	7.9	H15
		15.5	36.3	35.9	9.3	3.0	H16
学校生活	学校生活に関して特に心配事や悩み事はない	13.0	33.2	38.6	11.1	4.1	H15
		31.2	27.4	22.1	9.0	10.3	H16
部活動	部活動について、自分なりにがんばって練習に取り組んできたので充実している	30.8	27.2	27.5	9.1	5.4	H15
		35.8	27.1	25.3	4.3	7.5	H16
友人関係	困ったときや悩んだときに相談できる友だちが何人かいる	33.3	37.7	22.6	3.3	3.1	H15
		38.9	36.2	20.0	3.4	1.5	H16
	友だちと話をしたり、いっしょに作業したりするのは楽しい	39	36	20	3	2	H15
		60.6	25.3	10.1	2.9	1.1	H16
		56.3	31.9	10.4	1.1	0.3	H15
友人関係でいやな思いをしたことがない	22.5	29.6	31.4	11.4	5.1	H16	
	20.7	29.3	32.9	12.0	5.1	H15	
全体	学校生活を総合的に判断して中学校生活を 楽しんでいる・充実している・満足している	31.0	35.2	21.7	8.1	4.0	H16
		23.8	42.1	23.0	9.6	1.5	H15

教職員の自己評価と生徒の学校生活に関するアンケートを分析し、課題に対する認識を深めました。平成 16 年度の職員研修の場では、学校生活、部活動など、自校の強みを生かしながら、課題である学習指導の充実に向けて、以下のような具体策を提案することができました。

平成 17 年度は、この具体策に取り組んでいます。

(授業の充実と家庭学習の習慣付けをめぐる課題の分析)

- ・生徒の評価を指導方法の改善に生かそうとする積極的な取組ができる雰囲気づくりが進んだ。
- ・意欲がある生徒は、解決法を塾に求めている。
- ・意欲がない生徒をどう指導するかに着目する。
- ・かつては、できるまで補充学習を行った。
- ・入学後の早い段階で、中学校の勉強の仕方を身に付けさせる。(予習・復習・テストの準備を含む。)
- ・重点的に指導する基礎・基本の内容(反復学習可能なもの、家庭学習で取り組めるもの、自己評価可能なもの)を明らかにする。
- ・「毎日宿題はやってくるものだ」と意識付ける。

(授業の充実と家庭学習の習慣付けのための具体策)

- ・授業評価については、実践を通じた改善を重ねてシステム化に向けて努力する。
- ・先輩のノートを見本として見せる。
- ・課題を出せば家庭学習に取り組む生徒もいる。
- ・テストの目標(点以上合格)を具体的に示す。
- ・課題の取組状況を教師がチェックする。
- ・家庭学習の仕方を指導する。

この事例から学ぶこと!

- 1 テーマを絞り込んで評価結果の検討を行ったことです。
- 2 評価結果をもとに学校の教職員同士で検討するしくみが確立されたことです。
- 3 達成度や向上の現状を数値化することで、具体的に授業改善を検討する必要性や全教職員で検討する意義について気付き、実際の検討につながったことです。

問題点とその改善策を自由に話し合える雰囲気の中、学校評価の結果に関する検討会がなされたことがポイントです。

教職員が話し合いを通して、問題点を洗い出し、改善の具体策を出すことで、次年度は、検討した具体策について全教職員が意識して取り組むことができました。



事例6

自分が評価したい、されたいと思える学校評価の一工夫

聴き取り校では、「自分が評価したい、されたいと思える学校評価システム」を目指してさまざまな工夫がされています。ここでは、それぞれ工夫された実践を紹介します。

工夫1

週案を活用した評価

【小学校の例】学校の重点課題を週案に位置付け、評価に生かしています。

この学校では、「道徳の時間の充実」が学校の重点課題であることを、常に一人一人の教師が意識して取り組めるように、週案に「道徳の時間の記録」の欄を設けています。教師は、道徳の授業の実践について自己評価し、感想や反省を記述します。校長、教頭、教務主任がそれを確認し、校長がアドバイスを含めてコメントを記述しています。多くの先生方のアドバイスを生かして授業改善を図っています。

学習指導計画					第	学期	月	第	学年	組	氏名		
					第	週							
	月(日)	火(日)	水(日)	木(日)	授業時数								
	()	()	()	()	時数	週予定	週実施	学期予定	実施累計	過不足			
1	()	()	()	()	領域	国語							
2	()	()	()	()		社会							
6	()	()	()	()		活動	(2)個						
						小計							
						特別	学	儀					
						校	学						
					活	行	健・体						
					動	事	遠・集						
							勤・奉						
							小計						
							総合的な学習の時間						
							合計						
		反省	道徳の時間の記録(感想・課題)										

週案に「道徳の時間の記録(感想・課題)」の欄を設け、具体策の意識化を図りました。毎週その取組状況の評価を行い、ポートフォリオとして成果と課題を蓄積することで、学校評価の総括評価に役立てることができます。

教師は、心のノートを活用した授業の感想や教材研究、資料の分析、活用法など気付いたことを記述しています。

週案を利用した学校評価は、学校の重点課題を常に意識した取組ができ、実践、反省、改善のプロセスが記録として残されるので、成果が分かりやすくなります。学期末に実施される学校評価に、これらの反省から総括することも可能です。しかも、「実践、反省、改善の記録」を校長、教頭、教務主任、学年主任が確認することができるので、教師が抱えている悩みについてアドバイスを得ることもできます。

この事例から学ぶこと！

週案の反省欄に学校の取り組む重点課題を明記し、毎週意識した取組ができるように工夫していることです。

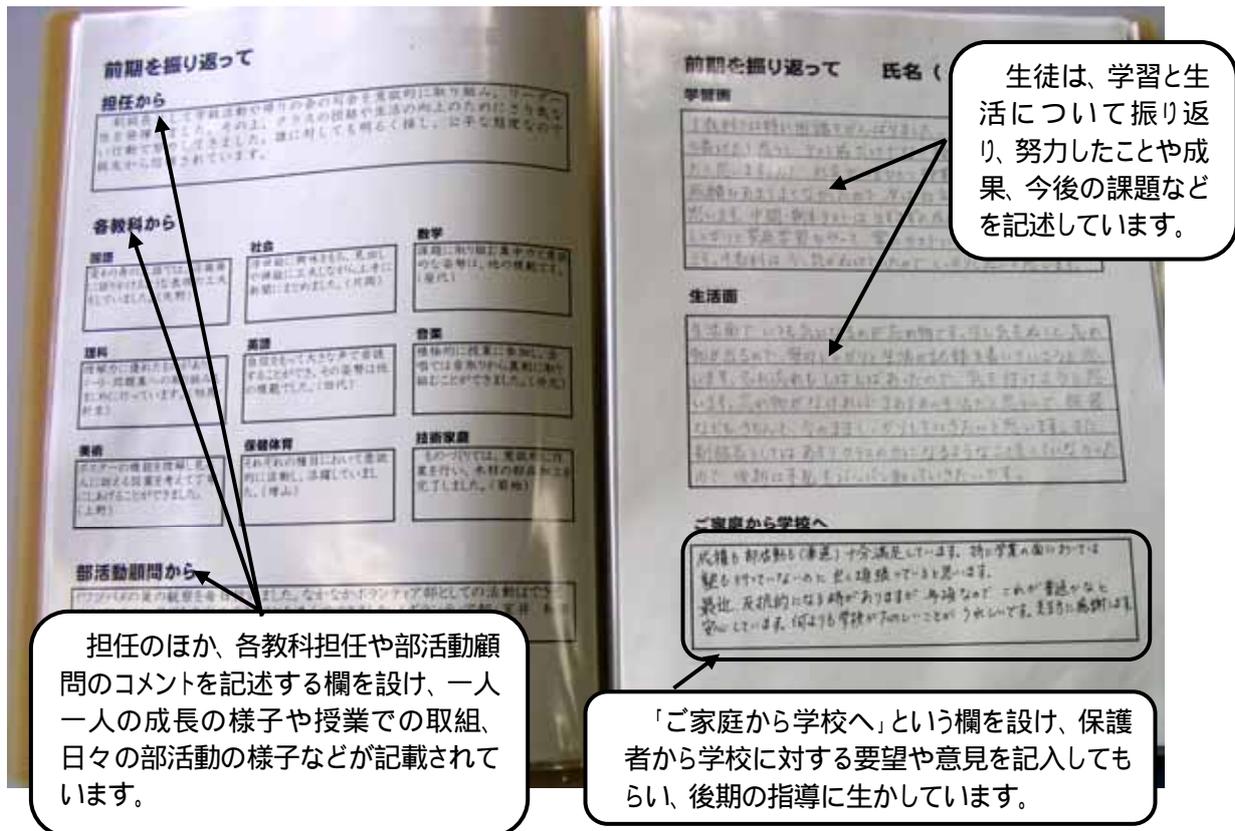
重点課題が、複数設定してある場合は、重点課題の項目を明記し、特に重点的に取り組んできた課題について、「実践上の問題点」、「改善して取り組んだこと」、「データ化して成果に現れていること」等を記録することで、より学校評価としての位置付けが高まります。



工夫2 通知表を利用した情報発信と外部評価

【中学校の事例】ポートフォリオ形式の通知表を利用して双方向の情報交換に努めています。

この学校では、学校行事の記録写真や学習の作品（制作物の写真やコピー）等の学習や様々な活動の記録をファイリングして、一人一人に応じたポートフォリオ形式の通知表を作成しています。学期末には、生徒自身の振り返りと各教科担当からのコメントを書き加えて保護者に渡し、「ご家庭から学校へ」という欄には、保護者から学校に対する要望や意見を記述できるようにしています。



一人一人の成長の足跡がみえ、成長のプロセスが一目瞭然になっているこの通知表は、「子どもの学校での学習や生活や様子が具体的に一目で分かるので大変ありがたい。」と、保護者に大変好評を得ています。保護者は、学年通信や学級通信等を利用した学校の紹介からではなく、自分の子どもの活動を通して学校の様子を把握することが可能です。

生徒と保護者と教師が学習のねらいを共有し、生徒の進歩の状況やよさを把握しながら、成長につなげていくことで、教育目標の具現化を図っていこうとする取組です。

この事例から学ぶこと！

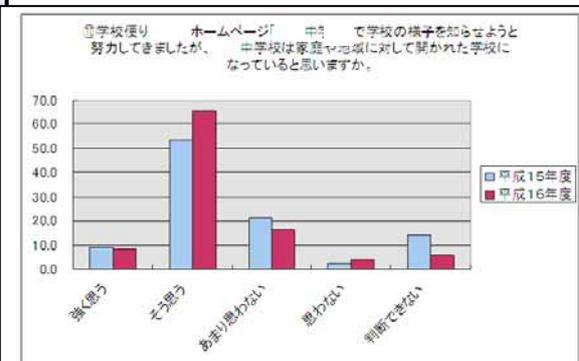
この通知表は、学校の教育活動について、保護者に伝えるだけでなく、学校の教育活動に対する評価も得られるようにしています。



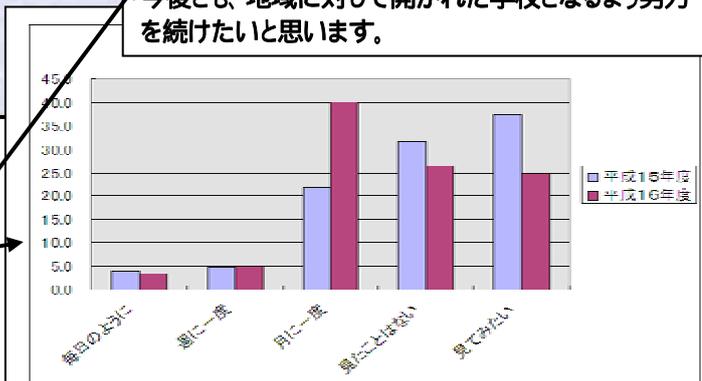
【中学校の事例】学校のホームページを利用し、積極的に情報発信を行っています。

この学校では、ホームページで学校の教育活動や生徒の様子を紹介しています。今日実施した教育活動はその日のうちに発信されており、日常的な情報提供が、学校への関心を高めることに役立っています。

学校の教育活動の様子が即座に分かり、学校の出来事を共通の話題にして、子供とのコミュニケーションを深めている家庭も増えています。また、学校側からの一方的な情報発信だけでなく、閲覧者の意見や学校への意見収集にも活用されており、時には、学校のOBやOGからも励ましや応援のメッセージをいただくこともあります。



学校の行事、考査等を掲載した学校便りを、年間に12回(毎月10日)発行しています。また、ホームページでは学校の様子をリアルタイムでお知らせしようと努力しています。学校便りやホームページを5割以上の生徒が見ているという回答を得ています。今後とも、地域に対して開かれた学校となるよう努力を続けたいと思います。



保護者による学校評価の結果を集計し、学校側の考えとあわせてWebページで公表しています。(平成16年1月)

現在、ホームページには1か月平均約1000件のアクセスがあります。この数字がさらに増えていくように魅力あるホームページを作成していきたいと考えています。



この事例から学ぶこと!

Webページを利用して、できるだけ新鮮な学校の取組や活動を保護者に伝えていることです。

今回の調査から

(1) 意識調査から

今回の調査では、全ての5年目研修受講者、10年目研修受講者、20年目研修受講者を対象にアンケートを実施し、学校評価の取組に関する意識について把握しました。その結果からは、学校評価に関する有用感、外部評価の必要感が高いことが明らかになりました。

一方、実施に当たって課題を感じている教職員が多くいることも明らかになりました。

(2) 聴き取り調査から

各校の取組に積極的に取り組んでいる先生方に、評価が学校の改善に活かされているという充実感、達成感が味わえる取組がたくさんありました。一人一人の先生の充実感、達成感が、組織としての「生きてはたらく力」、「協働」につながっています。

しめくりに、聴き取り調査をして印象に残った先生方の話を紹介します。

テトラSの手法を生かして学校の改善を図ってきた中学校の先生からは、「評価を繰り返しながら取り組んだこの活動で、確かに生徒は変わりました。でも、一番変わったのは私たち教師です。」との言葉が聞かれました。

ある小学校の校長は、「学校はこんなことに努力します。」と、学校の取組を保護者に説明し、事あるたびに「学校だより」を通して学校の取組を伝えてきました。しかし、3年間伝え続けてきても、なお学校の取組についてよく分からないとの指摘がありました。それでも、「取組の様子が分からないという回答の方が少数ながらおいでになったことを反省材料とし、これまで、学校だよりや授業参観、学校公開、学年だよりなどにより、学校の取組を紹介するよう努めてきましたが、さらに効果的な方法を探りたいと思います。」と訴え続けています。

ある中学校では、聴き取り調査の訪問時がちょうど清掃時間でした。清掃時間が終わり、聴き取りの約束をした先生とお会いした際に、その先生が開口一番言われたことは、「生徒は、清掃をきちんとやっていたか？お客さんにあいさつはきちんとできましたか？お世辞抜きに教えてください。」でした。「清掃とあいさつは、学校で取り組む今年の重点指導なんです。お客様から得られた情報も、外部評価ですからね。」とも話されていました。あらゆる場面で外部からの評価を得るように心がけており、いい評価が得られた際には大いに生徒を賞賛しているそうです。

このような先生方の声は、評価を生かして学校運営の改善を図ろうとする努力が各学校でなされていることを実感させるものでした。ただ、調査にご協力いただいた学校が提供してくださった資料の全てはご紹介できませんでしたので、事例ごとに示した「この事例に学ぶこと！」に反映させていただきました。

この参考資料が様々に活用され、学校評価システムの充実改善のつながることを祈念しています。

最後になりましたが、聴き取り調査にご協力いただいた各学校と、調査研究に当たりま

して、ご指導、ご助言いただきました、国立教育政策研究所 高等教育研究部 木岡一明
総括研究官、宇都宮大学教育学部 藤井佐知子教授に深く感謝申し上げます。

参考資料

- 『公立学校における学校評価及び情報提供の実施状況』 2004年1月16日
文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課
- 『学校評価及び情報提供の実施状況』 2006年1月16日
文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課
- 『公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況』 栃木県教育委員会
- 『学校評価の手引き』（平成17年3月） 栃木県教育委員会
- 『学校評価 Q&A - 明日の学校づくりのために -』（平成17年3月）
栃木県総合教育センター
- 『平成16年度 生きる力をはぐくむ教育に関する調査報告書』
栃木県小学校校長会
- 『学校評価の「問題」を読み解く 学校の潜在力の触発』 木岡 一明：著 教育出版
- 『Benesse VIEW 21』〔中学版〕2005年4月号

参考 URL

- 「テトラS」メニューページ <http://www.k-tetras.com/menupage.htm>
- 国立教育政策研究所 高等教育研究部 木岡研究室 <http://www.nier.go.jp/kazu/>

資料

学校評価に関する教職員の意識に関する調査結果の概要

1. 調査のねらい

本県教職員の学校評価への取組に対する意識の調査を通して、従来から取り組んできた学校評価の成果や課題について明らかにするとともに、今後の取り組むべき方向性を探る。

2. 調査の概要

- (1) 調査方法 質問紙方式
- (2) 調査の期日 平成17年5月17日～6月2日
- (3) 調査対象者及び回答者数 5年目研修受講者 49名(小学校24名、中学校25名)
10年目研修受講者 153名(小学校74名、中学校79名)
20年目研修受講者 283名(小学校160名、中学校123名)

3. アンケート項目

設問1 学校評価の有用感

- (1) 学校評価は、教育活動や学校経営の充実改善に役立っていると思いますか(表1)

設問2 学校評価に関する教職員個々の取組状況

- (1) 学校経営の構想や重点目標をよく理解して学校評価に臨んでいる(表2)
- (2) 授業の充実改善を図るため、児童生徒による授業評価を取り入れている(表3)
- (3) 学校評価の結果をもとに学年経営や学級経営の見直しを図っている(表4)
- (4) 学校評価の結果をもとに授業の充実改善を図っている(表5)
- (5) 教職員による学校評価に積極的(意欲的)に取り組んでいる(表6)
- (5)-1 積極的に取り組んでいる理由(8つの選択肢の内3つまで回答)(表7)
- (5)-2 積極的に取り組んでいない理由(7つの選択肢の内3つまで回答)(表8)

設問3 学校評価に関する意識(図1)

- (1) 学校評価は、学校経営、学年経営、学級経営の改善に役立つ
- (2) 学校評価は、児童生徒の理解に役立つ
- (3) 学校評価は、施設設備の改善や整備に役立つ
- (4) 学校評価は、学校行事等の改善充実に役立つ
- (5) 学校評価は、授業の充実改善に役立つ
- (6) 学校評価は、校務分掌などの仕事の向上に役立つ
- (7) 学校評価は、学校全体で取り組むことで、教職員の意欲の喚起が図れる
- (8) 学校評価は、学校全体で取り組むことで、教職員の共通理解が図れる
- (9) 保護者が学校評価を行うことは、保護者との連携した取組に役立つ
- (10) 地域の人々や学校評議員が学校評価を行うことは、地域の人々との連携した取組に役立つ
- (11) 保護者は、学年や学級の目標がどの程度達成されているか知りたがっている
- (12) 評価の結果を保護者や地域の人々に公表することは、学校への信頼を高めることができる
- (13) 児童生徒や保護者等に、学校の目標、計画や取組について、あらかじめ知らせておくことは大切だ
- (14) 保護者や地域の人々、学校評議員等外部の人たちによる学校評価は大切だ
- (15) 評価結果を集計して、保護者や地域の人々、学校評議員等に公表することは大切だ
- (16) 児童生徒による授業評価は、授業の充実改善を図るため大切だ
- (17) 学校評価を行って学校経営の改善を図るのは、管理職の仕事だ

設問4 学校評価への課題意識

- (1) 学校評価について課題を感じていることはありますか(表9)
- (1)-1 どのような課題を感じていますか(表10)

4. 調査結果

表1 学校評価に関する有用感

	役立っている	あまり役立っていない	わからない
小学校	54.7%	28.3%	17.1%
中学校	55.3%	30.1%	14.6%
全体	55.0%	29.1%	15.9%

表2 学校経営の構想や重点目標をよく理解して学校評価に臨んでいる

	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
小学校	8.8%	72.9%	18.2%	0.0%
中学校	8.2%	68.0%	22.4%	1.4%
全体	8.5%	70.7%	20.1%	0.6%

表3 授業の充実改善を図るため、児童生徒による授業評価を取り入れている

	積極的に取り入れている	取り入れている	あまり取り入れてない	取り入れていない
小学校	2.8%	28.5%	54.2%	14.5%
中学校	5.4%	25.9%	47.6%	21.1%
全体	4.0%	27.3%	51.2%	17.5%

表4 学校評価の結果をもとに学年経営や学級経営の見直しを図っている

	図っている	どちらかといえば図っている	どちらかといえば図っていない	図っていない
小学校	12.3%	68.2%	18.4%	1.1%
中学校	12.4%	56.6%	26.2%	4.8%
全体	12.3%	63.0%	21.9%	2.8%

表5 学校評価の結果をもとに授業の充実改善を図っている

	図っている	どちらかといえば図っている	どちらかといえば図っていない	図っていない
小学校	10.6%	63.7%	23.5%	2.2%
中学校	9.5%	62.6%	23.1%	4.8%
全体	10.1%	63.2%	23.3%	3.4%

表6 教職員による学校評価に積極的(意欲的)に取り組んでいる

	よくあてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
小学校	11.1%	69.4%	18.9%	0.6%
中学校	12.9%	60.5%	24.5%	2.0%
全体	12.4%	64.1%	22.6%	1.0%

表7 積極(意欲)的に取り組んでいる理由
(あてはまる n = 59 どちらかといえばあてはまる n = 310)

	全 体	小学校	中学校
学年経営、学級経営の改善に役立つ	44.4%	37.3%	51.9%
授業の充実改善に役立つ	19.9%	13.3%	26.9%
児童生徒の理解に役立つ	26.4%	24.7%	28.2%
施設の改善整備に役立つ	23.9%	30.7%	16.7%
学校行事等の改善に役立つ	63.0%	66.3%	59.6%
課題が明確になり、解決に取り組める	75.2%	77.1%	73.1%
評価の観点に立った教育実践ができる	12.1%	15.7%	8.3%
その他	0.9%	0.6%	1.3%

表8 積極(意欲)的に取り組んでいない理由
(どちらかといえばあてはまらない n = 109 あてはまらない n = 5)

	全 体	小学校	中学校
評価が改善に生かされない	54.5%	48.8%	58.6%
評価項目をじっくり検討する時間がない	61.6%	68.3%	56.9%
年度当初に評価項目や観点が示されていない	27.3%	24.4%	29.3%
学校運営に参画しているという意識が持てない	19.2%	4.9%	29.3%
自分の授業の改善や学級経営に役立つと思えない	3.0%	7.3%	0.0%
評価表が記名式で率直な意見が述べられない	19.2%	19.5%	19.0%
その他	11.1%	9.8%	12.1%

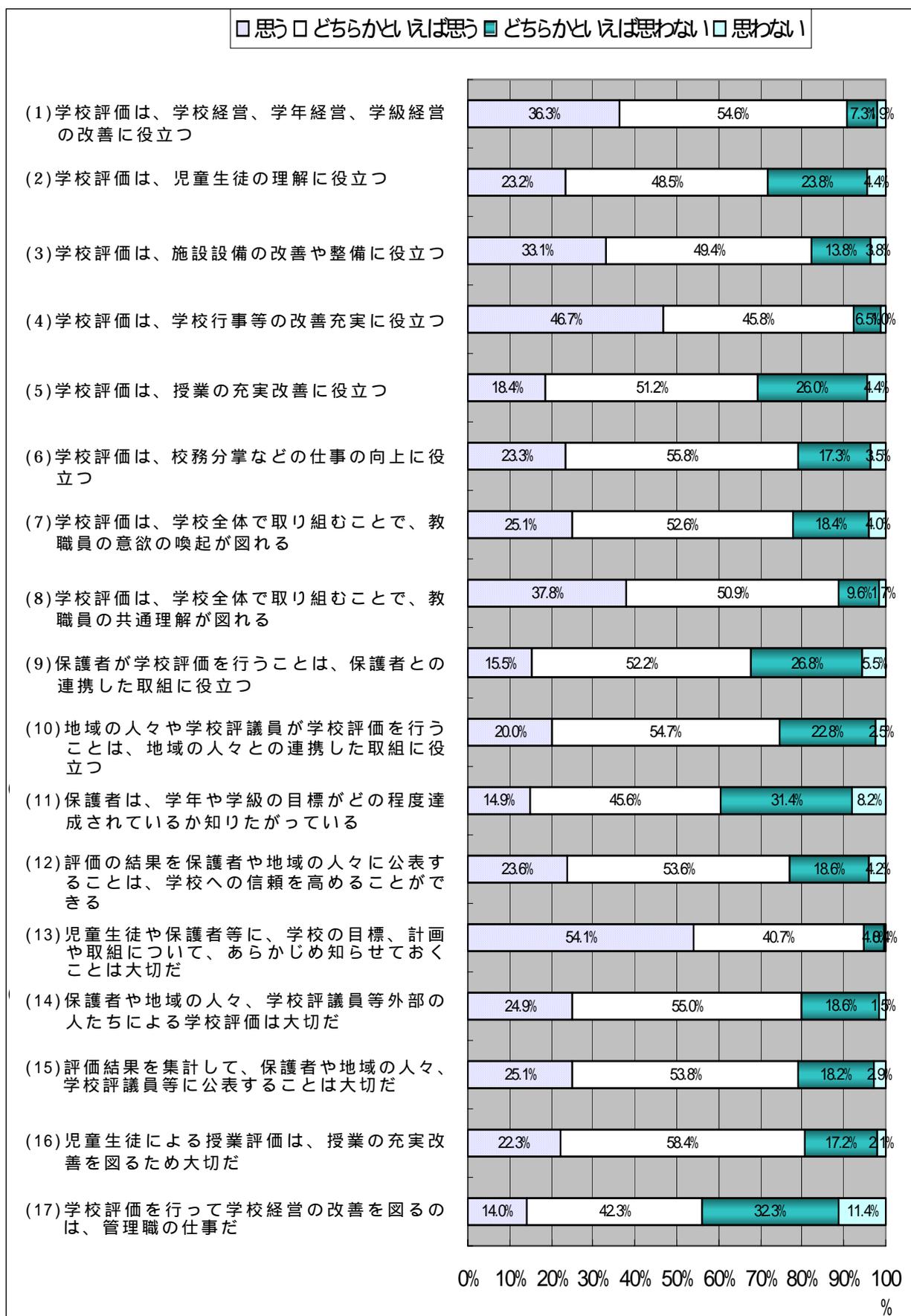
表9 学校評価について課題を感じていることはありますか

	あ る	な い
小学校	76.7%	23.3%
中学校	68.6%	31.4%
全 体	72.9%	27.1%

表10 どのような課題を感じていますか

	全 体	小学校	中学校
評価項目が具体的でない	27.1%	26.8%	27.5%
判断基準が明確でない	56.8%	54.1%	60.1%
評価したことが改善に生かされない	45.8%	44.8%	47.1%
評価計画ができていない	7.8%	8.2%	7.2%
学校評価に取り組む教職員の意識	16.7%	11.3%	23.5%
教職員が協力して改善を図らない	25.6%	20.1%	32.7%
経営方針の説明の仕方	7.8%	7.7%	7.8%
評価結果の公表の仕方	23.9%	27.3%	0.0%
その他	6.1%	7.7%	0.0%

図1 学校評価に関する意識



学校評価に関する参考資料(小・中学校編)
- 信頼される「開かれた学校」づくりを目指して -

発行 平成 18 年 3 月
編集 栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028(665)7204 FAX 028(665)7303